

国別駐在員・調整員一覧表

(注) 1. 氏名下の月日は、始まりは入事発令日、後ろは発令日の前日 2. C.C.は CONTRACT COORDINATOR (職託調整員) 3. M.C.は MEDICAL COORDINATOR (医療調整員)

	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	(午後)
フィリピン	駐在員	稲谷甲一 大畑英雄 豊島一郎 高橋成雄 黒田登治 新保昭治 松尾邦義 (42/10/1~44/9/4)(44/9/5~47/2/6)(47/2/7~49/1/28)(49/10/1~51/7/31)(51/10/1~54/10/31)(54/11/1~58/3/31)(58/4/1~ 調整員 伊藤勉 熊野秀一 平沢昭男 山崎昇 中垣長睦 野津善雄 (43/8/9~45/8/31)(45/7/13~48/8/31)(48/10/1~52/10/1)(52/10/1~56/3/14)(56/4/19~57/6/28)(57/4/28~ (46/1/7~47/10/3)(48/4/1~51/3/31)(51/4/1~54/10/7) 佐尾山省二C.C. (48/10/15~51/9/30)(51/10/1~53/6/30)(53/7/1~56/7/31) (60/1/17~																			
マレーシア	駐在員	植原保一(OTCA 所長) 坂本直久雄 松崎孝雄 稲谷甲一 金城光男 吉嶺博 平沢昭男 八林明生 (40/10/15~43/2/3) (45/5/20~48/10/14) (48/10/1~51/10/1) (51/12/1~54/10/31) (55/1/7~56/12/12) (56/11/15~60/2/7) (60/1/28~ 調整員 二瓶義宗 小松征司 谷川与志雄 八林明生 草野忠征 堀内清美 鈴木厚子 (44/12/1~46/12/25)(46/12/11~49/10/30)(49/11/1~51/1/4)(51/1/5~53/7/1) (53/7/1~56/8/5)(56/8/26~58/3/31)(59/5/16~ (サバ) 調整員 草野忠征 山口廣治 谷川与志雄 沢田真一 (46/10/12~48/7/24) (50/4/1~51/9/30)(52/4/1~55/8/23)(55/8/6~58/9/12)(58/8/7~																			
	駐在員	岡部和夫 山口定則 藤浦沖 細川公和 (42/7/5~44/1/15)(44/8/1~46/9/14)(46/8/28~47/10/15)(47/11/13~51/2/19) 調整員 藤部正剛 松谷勝成 遠藤光路 阿部憲子 (43/5/5~45/8/12)(45/7/18~47/7/28)(47/10/21~50/3/31)(50/4/1~53/3/30) 尾口忠弘 坂牧嘉昭 (46/1/29~48/3/31)(48/4/1~52/3/31)																			
タイ	駐在員	坂牧嘉昭 鈴木信一 (56/6/22~59/4/30)(59/5/18~ 調整員 稲留常弘C.C. (59/3/1~																			
バンララデジュ	駐在員	伊藤健一 熊野秀一 表伸一郎 石川漢男 (48/8/1~51/7/31)(51/10/1~54/9/14)(54/10/1~57/9/30)(57/10/1~ 調整員 佐藤映二 飯塚睦介 加藤高史 佐々木健一C.C. (49/11/15~52/9/30)(52/10/1~55/10/21)(55/11/8~58/11/27) (59/1/21~ 加藤奈津子M.C. (60/2/23~																			
ネパール	駐在員	橋本東一 山口孝一 遠藤光路 小松征司 森靖之 (47/10/1~50/11/9)(50/11/10~53/9/30)(53/10/1~56/7/31)(56/8/1~59/8/3)(59/7/16~ 調整員 大西脱夫 登井康雄 本村清一 中塚正孝 (45/11/6~47/9/30) (49/1/5~51/9/30) (53/7/1~57/4/5) (57/3/18~ 木内志郎 山本泉 大西英之C.C. (50/7/1~53/11/30)(53/12/1~56/12/6) (58/4/5~ 加藤奈津子M.C. (59/4/17~60/1/18)																			
インド	駐在員	宮持優 富田浩造 宮持優 (44/10/18~47/9/30)(47/10/1~50/9/30)(50/10/1~53/4/30) 調整員 山口孝一 表伸一郎 鈴木信一 (43/8/29~45/7/31)(45/6/24~48/9/30)(48/11/1~49/12/31) 小野田文彬 田上実 (44/12/8~47/2/20)(47/2/18~48/3/25) 藤巻洋 (46/3/25~48/3/25)																			
スリランカ	駐在員	藤巻洋 笹子実 (56/3/30~57/9/21)(57/12/1~ 調整員 山本昭夫C.C. (58/5/31~ 白鳥清志C.C. (59/9/18~																			
シリア	駐在員	松尾邦義 木内志郎 (51/8/1~54/3/5)(54/2/1~57/3/31)(57/4/1~ 調整員 大久保純夫 (51/8/1~54/3/5)																			
チュニジア	駐在員	柳井進 忠原裕樹 大久保純夫 (53/6/1~55/10/15)(55/10/15~58/3/31)(58/4/1~ 調整員 忠原裕樹 坂谷正毅 (50/4/1~53/5/31)(52/9/1~54/10/19)																			
エリトリア	駐在員	山本雅生 道下高一 藤部正剛 山本雅生 中村昌彦 鈴木治夫 藤部正剛 (43/11/25~45/4/24)(45/4/25~46/11/29)(47/10/1~50/9/30)(50/10/1~54/3/31)(54/4/1~54/8/17)(55/4/1~57/9/30)(58/4/1~ 調整員 中村昌彦 辻岡政男 坂谷正毅 高山敏 作永重一C.C. (45/8/25~47/8/24) (51/1/5~54/1/31) (54/10/20~55/10/18)(57/10/18~59/10/17) (59/11/2~ エチオピア 駐在員 金城光男 田口定明 (47/10/1~51/8/31)(51/9/1~54/1/31) 稲葉泰 駒沢彰夫 (48/8/1~50/8/4) (52/4/1~52/10/31) (54/3/1~57/6/30)(57/7/1~ 調整員 稲葉泰 林和昭 (48/8/1~50/8/4) (52/4/1~52/10/31) (54/3/1~																			

	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	(年俵)	
ケニア	駐在員	柳井進	吉嶺博	二瓶義宗	伊藤勲	豊島一郎	熊野秀一														(58/4/1 ~ 58/4/1 ~)	
	調整員	福田武司 C.C.	仲井儀英	平川謙	石川清男	宮川文男	佐藤誠二	山形茂生 C.C.														(44/1/1 ~ 46/7/25) (46/7/30 ~ 48/7/31) (48/10/1 ~ 51/2/28) (51/4/1 ~ 54/3/31) (54/4/1 ~ 57/4/29) (57/6/24 ~ 59/11/25) (59/9/21 ~ 59/9/21 ~)
タンザニア	駐在員	富田浩道	柳井進	長倉孝	藤浦沖	大西則夫	吉川浩史															(42/6/1 ~ 45/5/14) (45/11/6 ~ 48/7/31) (48/8/1 ~ 50/8/31) (50/9/1 ~ 53/7/31) (53/8/1 ~ 57/1/31) (58/4/1 ~ 58/4/1 ~)
	調整員	安藤知明	飯塚健介	小畑泰之	駒沢泰夫	江畑謙雄	鈴木秀幸															(43/8/24 ~ 46/10/1) (46/8/18 ~ 48/11/25) (48/11/7 ~ 52/1/31) (52/2/1 ~ 55/4/3) (55/4/30 ~ 58/4/27) (58/4/7 ~ 58/4/7 ~)
マラウイ	駐在員		福田武司	仲井儀英	福田武司	長倉孝																(46/7/26 ~ 48/10/31) (48/10/1 ~ 51/9/30) (51/10/1 ~ 56/5/31) (56/6/1 ~ 56/6/1 ~)
	調整員		江畑謙雄	三浦敏	金子実	小宮英夫	加藤幸 C.C.															(47/12/20 ~ 49/12/31) (50/1/1 ~ 52/3/31) (52/4/1 ~ 55/4/7) (55/5/16 ~ 59/4/19) (58/6/8 ~ 58/6/8 ~)
ザンビア	駐在員		吉村正秀	豊島一郎	大塚哲生	奈良輪徳美	中垣長隆	山口廣治														(46/8/26 ~ 49/9/30) (50/9/1 ~ 51/1/31) (51/12/1 ~ 54/2/28) (54/4/1 ~ 57/3/31) (57/7/1 ~ 59/8/3) (59/7/16 ~ 59/7/16 ~)
	調整員		赤星昭昭	橋坂瑞夫	渡藤健男	小瀬川修 C.C.																(49/9/20 ~ 52/9/30) (52/10/1 ~ 55/10/19) (55/11/15 ~ 58/6/11) (58/6/1 ~ 58/6/1 ~)
ガーナ	駐在員			平川謙	中野勝安	金山昌功																(51/4/1 ~ 55/3/31) (55/3/20 ~ 58/3/31) (58/4/1 ~ 58/4/1 ~)
	調整員			金子洋三	大油根三																	(53/12/1 ~ 56/10/4) (57/3/24 ~ 60/1/14) (60/2/8 ~ 60/2/8 ~)
リベリア	調整員			林和昭	仲井儀英	筒井昇	大塚正明															(54/4/1 ~ 55/11/17) (55/11/6 ~ 57/4/4) (57/3/12 ~ 59/5/2) (59/4/18 ~ 59/4/18 ~)
セネガル	調整員			茅根史男	生井年緒	坂谷正毅																(55/9/29 ~ 57/10/30) (57/10/15 ~ 59/6/23) (59/9/21 ~ 59/9/21 ~)
ニジェール	調整員																					高山敏 (59/12/14 ~ 59/12/14 ~)
エルサルバドル	駐在員			望月久																		望月久 (53/5/1 ~ 54/4/14) (53/5/1 ~ 54/4/14)
	調整員			望月久	花田真人																	(45/6/2 ~ 48/8/30) (48/9/15 ~ 53/5/1) (48/9/15 ~ 53/5/1)
コスタリカ	調整員			大塚保弘	表孝雄	河野文男																(51/10/1 ~ 55/5/31) (55/6/1 ~ 58/4/24) (58/4/15 ~ 58/4/15 ~)
ホンデュラス	駐在員					田上実	赤坂昭昭															(55/4/5 ~ 58/3/31) (58/4/1 ~ 58/4/1 ~)
	調整員					船越法岳	藤嶋泰昌	小林育夫 C.C.														(53/6/1 ~ 56/7/31) (58/8/27 ~ 60/2/8) (59/11/28 ~ 59/11/28 ~)
ハラグアイ	駐在員			望月久	花田真人																	望月久 (54/10/1 ~ 57/6/30) (54/10/1 ~ 57/6/30)
	調整員					鮎川達	駒田光彦 C.C.															(53/4/1 ~ 55/6/21) (58/6/3 ~ 58/6/3 ~)
ボリビア	調整員																					富沢浩 (60/1/9 ~ 60/1/9 ~)
ペルー	調整員																					高橋田夫 大塚保弘 (59/4/0 ~ 59/4/27) (59/4/1 ~ 59/4/1 ~)
西サモア	駐在員																					小野隆一 伊藤英明 豊島一郎 萩野忠征 (52/10/1 ~ 54/9/14) (54/10/1 ~ 57/1/31) (57/2/1 ~ 59/2/28) (59/3/1 ~ 59/3/1 ~)
	調整員																					田口定則 伊藤英明 吉川浩史 (47/11/13 ~ 48/3/9) (48/4/1 ~ 50/4/14) (50/4/1 ~ 52/9/30) (50/4/1 ~ 52/9/30)
トンガ	調整員																					小野浩 C.C. (60/2/25 ~ 60/2/25 ~)
ソロモン	調整員																					眞田哲郎 C.C. (59/1/19 ~ 59/1/19 ~)
P. N. G.	駐在員																					吉村正秀 平川謙 (55/12/3 ~ 57/4/15) (58/3/15 ~ 58/3/15 ~)

## 都道府県協力隊事業主管課担当者一覽

都道府県	昭和42年→	→ 昭和60年
北海道	青少年婦人事務局 沢口晃 小山内宏 高木潔 関口研作 後藤芳夫 坪田日出夫 片平美智子 前田晃 羽賀哲郎 見瀬哲吉	国際交流課(S56~)
青 森	県民課 文書課 正田耕之助 秋田谷秀敏 小林金治 葛西寛治郎 前田喜雄 良原泰朋 朝井達雄 白取肇 白取信一 今井康徳 三上洋四郎 猪久保省蔵 浜田久子 相馬義信 波谷剛一 塚原 忠 飯田誠一	
岩 手	広報課 県民生活課 広課 青少年対策局 青少年対策課 青少年婦人課 和美宏幸 田口富保 細田勇吉 高橋省三 佐々木功 舟井良子 伊藤久雄 豊田弥枝 金野成雄 結城公昭 佐々木格 小長根英武 瀬川邦雄 寺本稀記 大信田恒一 和田喜美男 鈴木大亮 新川克巳	
宮 城	農政普及課 総務課(S49~) 総務課 安部孝子 中川英樹 伊藤剛 中畑敦、山田正 岡崎哲郎 浅野祐記 田中 研 菊池仁三 久保美代寿 佐々木勝典 青木政喜 山影恒敏 鈴木敏勝 菅原 一 須貝隆	
秋 田	開拓課(S44~) 農地管理室(S47~) 農産普及課(S48~) 普及教育課(S51~) 企画調整課(S60) 農地管理室 熊谷与四郎 船木善太郎 佐藤茂実 高恒 繁 有明 暢 桜庭堅次郎 伊藤俊男 若狭良一 加賀谷松和 松橋重雄 相場清也 田中逸郎 小川勝平 佐藤 亨 神原敏郎 田中幸雄	
山 形	行政総合対策室(S46~) 青少年課(S48~) 青少年婦人課(S52~) 調整課(S60~) 原田武一 武田義夫 小関正雄 網千久 斎藤貞雄 会田鋭一郎 丹陽一 藤島幸雄 佐藤光雄 柴田博 長岡篤 児玉光五郎 山田信一 川原和典 青木亮一 鈴木一夫 草刈武雄 美濃谷喬 永田和夫 押野新二	
福 島	文書学事課 県民生活課 青少年課 県民生活課 佐藤靖治 渡辺正入 八島新一 鈴木莊元 野地一 梅宮伝 米澤義正 鈴木利昌 根本義明 山寺四郎 中里光雄 五十嵐明	
茨 城	県民室 青少年課(S46~) 青少年婦人課(S53~) 総合県民室(S55~) 前田高利 熱田喜一 本多敏士 高橋忠一 石川洋子 石川和宏 木村勝幸 田倉仁 関部久子 木村泰昭 篠原操 莊司治	
栃 木	農務部農地開拓課(S42~) 農務部農業経済課(S45~) 大山徳次 坂入 宏 鈴木秀夫 今平利三 渡辺弘二 矢坂春広 今平利三 菊地 昭 小室孝 釜井康昭	
群 馬	文教外事課 県民課(S46~) 消費生活課(S53~) 榎原幸逸 川村修 岩佐勇作 石井卓郎 金沢奎三 一倉登 宮田秀穂 米山貴博 宮田秀穂 田中良幸 石坂郁夫 小黒憲一 梶沢康幸	
埼 玉	報道文化課 渉外課(S45~) 旅券渉外課(S48~) 旅券外事課(S54~) 旅券渉外課 瀬山正男 中村竹雄 松原 修 山本実 新藤正博 土橋邦章 小久保武 見沢照雄 会田正樹 榎田富久 石塚智康 小山武 小黒憲一 長谷部茂	
千 葉	青年対策局 青少年婦人課 松本一平 池田正一 水野厚 小島栄三 積田幸夫 吉野堯弘	
東 京	青少年対策部企画課 婦人青少年部企画課(S55/8~) 横尾幸彦 鈴木忠宏 松枝昭光 多田裕 田口昇 鳥生哲夫 石川博也 島田政登司 大野元子 竹内孝夫 田中繁治 小出すま子 藤本睦	
神奈川	渉外課 国際交流課 井上健 神保幹 矢戸和夫 宮台一郎 前川正博 龍崎成人 境長崎夫 三川幸夫 三野貴義	
新 潟	地方課 県民生活課(S45/8~) 県民広報課(S48/8~) 河崎藤男 浪花 健 原勝 高石東七 荒木義直 村田俊一 丸山 仁 富井昭彦 飯沼克英 長谷川和則	

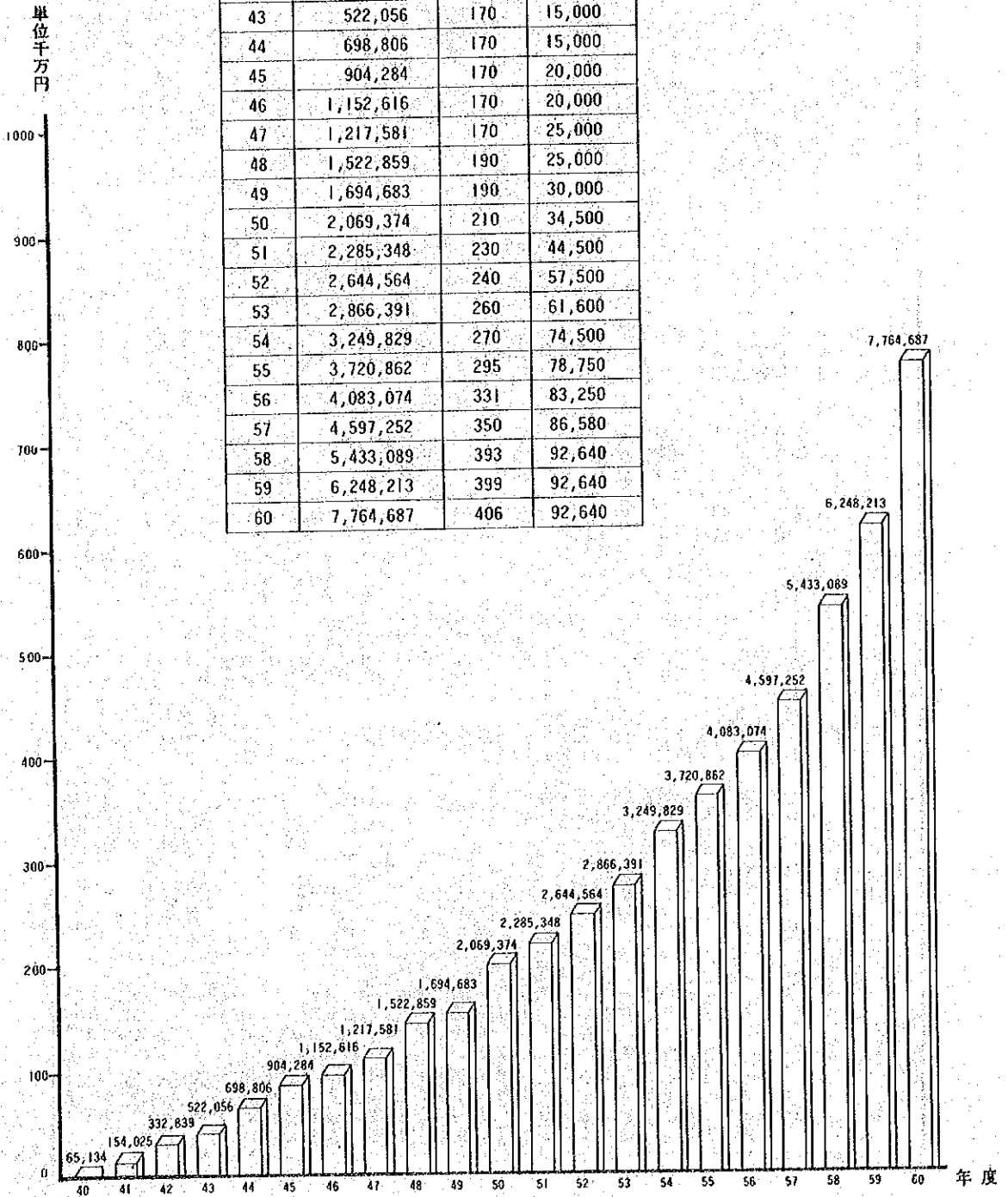
富山	<p>総務部総務課 吉崎義次郎 市村幸雄 山本三郎 塚原鉄二 林 清文 香川睦彦 法川すみ子 香川睦彦 五郎丸進 紙谷和雄 藤森寿之 佐々木外志 津田秋男</p>
石川	<p>農地開拓課 総務部総務課 松田徳治 浜田乙次郎 青山淑子 田川匡士 林健一 中村富士子 松岡 兼 山森憲造</p>
福井	<p>青少年課(S42) 青少年課(S43) 青少年婦人課(S56)~ 大谷松永 倉内定男 吉崎薫 小川義典 広阿文夫 柳文門 佐藤一郎 山口真 光成光子 浅井徳之 寺坂智昭 岩田俊一 浅野一雄 西田修 中尾繁 奥谷博子 高橋嶺二 永田康寛 前田聖仁</p>
山梨	<p>県民室 総務課(S46)~ 私学・国際課(S60) 鈴木孝三 保坂喜久男 河西昭男 坂本輝男 若尾政 橋田喜一郎 田中邦昭 窪田幸文 中村松次 望月泰孝 秋山孝 土橋道貴 倉田洋和 吉屋晴雄 井上東雄 笹本彰 三枝幹男 鴨狩光人 鴨狩光人 広瀬正三</p>
長野	<p>社会部青年家庭課 宮下光吉 長岡舜治 桐山義玄 宮木保則 飯沼三徳 倉沢幸一</p>
静岡	<p>農地計画課 後継者養成課(S44)~ 岩城千城 望月一善 大井秀夫 加藤稔治 河野弘 高橋宏 佐々木弘 川島弘維 関正次 小松正史 野田康男 墨岡忠 石津淳一</p>
愛知	<p>青少年対策部 青少年対策局(S46) 青少年婦人室(S51)~ 国際課(S58)~ 福井健三 山田敬二 川島紀之 佐久間謙一 大橋三千子 栗本幸子 足立孝雄 大橋三千子 間瀬紀雄 桑村吉隆 丸山太郎 夏目吉昌 大久保正昭 小池雄三 只腰健二</p>
岐阜	<p>農政部農政課 農政企画課(S47)~ 総務部青少年課(S53)~ 青少年婦人課(S57)~ 長島眞澄 西村ひろ 松井守 武内章 児玉紘三 三宅晋平</p>
三重	<p>開発拓植課 企画調整部広報外事課 杉野利郎 中立祐二 木村宏 水谷與志美 出口勝信 堀江昌三</p>
滋賀	<p>厚生部青少年対策室 企画部青少年対策室(S46) 青少年課(S51)~ 青少年社会教育課(S59) 寺村義一 野村充美 山田正俊 野瀬耕男 川原慎一 岡田真 松田健治 柏木孝男 三原栄一 大谷昇二 山田栄蔵 川村純一 中西洪之 中沢敏彦</p>
京都	<p>青少年対策室 社会福祉対策室 民生労働部青少年婦人課 福祉部青少年婦人課 橋本 成 田口明子 村田恭子 西川昌良 荒田文夫</p>
大阪	<p>青少年対策課 国際交流課 石山昌教 西村正雄 西岡忠男 浅野広三 阪口泰久 河野寿寛</p>
兵庫	<p>外務課 玉井茂治 森折男 瀬戸聖三 中村誠司 坂上修 大前裕之 福井哲也 石田功</p>
奈良	<p>県民課 総務部青少年課 山田吉茂 藤木勇 岩本正雄 大森光三郎 北村斗美夫 辰巳元紀 上武正則 池田博信 山本義夫 前田恵美 中村恵有 吉川作衛 木村隆雄 松谷幸和 杉岡幸男 南村政廣 川畑雅洋</p>
和歌山	<p>青少年局育成課 青少年婦人課(S56)~ 松岡房枝 中村昇 中尾泰彦 中川博文 脇田文広 浅利武 井上徹 小林義信 曾根義晴 上田文夫 杉原郁雄 山本憲雄 堀 寿泰</p>
鳥取	<p>総務部青少年室 婦人青少年室 青少年婦人課 足立三也 大谷昇 中野照彦 清水照 高田理宏 西村直 木郷庄一 衣笠克則 山下博也</p>
島根	<p>農地開拓課 農政課 総務課 高橋昭 西村利夫 若林清 小山益雄 須川富徳 高尾伸治 南陽孝夫 永田悠三 大矢万市 伊藤団蔵 安達希健 福田歳美 鴨木嘉雄 小山誠一 細木正明</p>

岡山	農林部農業経済課 福谷武志 神崎紀之	難波輝男 谷口宏 三垣孝志	県民生活部県民課(S49)~地域振興部県民生活課(S56)~ 横田勝正 藤井幸治 片岡進 守屋総一郎 杉井通夫 宮原茂	
広島	総務部総務課 江種正年 中原勲	羽根圭三 佐伯敏治	寺川祐 松前頼明 岡村支生 松本晃幸 御崎晃 片山賢治、太田一 明石輝文	
山口	広報課 県政課(S47)~ 松村茂 升山正祝	渡辺博好 平野 宏 木村 博 米村正志 末成 宏 田中折雄 古谷正三 秋山隆昭 秋山幸夫	県民課(S51)~県民生活課(S54)~ 婦人青少年課(S58)~ 中沢慧 原田積浩 池永孝正 竹迫輝雄 後藤寛治 藤村幹夫 寺井滋 梅田啓介 足立淳 江藤利通 岡村鈴江 上野清	
徳島	農地開拓課 農業改良課 三谷浩節 新田文夫	吉岡広美	総務課 広瀬敬治 橋本卓 河野博善 松崎敏則	
香川	農地拓植課 民生部婦人青少年課 田岡繁信 佐藤一美	小島俊夫 菊池鎮 森木充子	農林部農政課 島田唯行 山本直樹 石原聡	
愛媛	農地拓植課 農地計画課(S45)農業技術課(S46)農業技術センター(S50)~総務外渉課(S56)~ 垣見隆造 隅田文博	喜安晃 岡木孝弘 宮内敏行 岡田章 芳之内正幸	見玉常喜 小山正 大越透 成能誠雄 松波裕司 神野茂	
高知	児童家庭課 森本正男 依岡義浩 真広靖	曾我高次 熊沢成男	県民生活課(S53/4)~ 児童青少年課(S57/4)~ 石本岩男 森本勉正 野瀬幸雄 森本洋一 村木永政	
福岡	渉外移住課 加藤鉄雄 中島大三	岡部孝徳 熊谷龍生 今井一広 服巻進一	国際交流課 有吉喜幸 古賀村男 吉田曉子 小串正伸	
佐賀	県民室(S43) 青少年安全対策室(S51)~ 青少年対策課(S53)~ 青少年婦人課 口文人 横尾通正 田中猛善 木原勝久 松尾勝利 川村昭一 宮原義幸 佐伯義統 大草安幸 徳淵康徳 前田勝秀 菱ヶ江光昭 高木辰巳 田崎隆直 糸山忠義 野中邦雄			
長崎	外務文教課(S43)~ 総務学事課(S50)~ 松尾裕馨 浜田久 吉村康雄	浦瀬辰男 石橋照之 久保 東 富永 清 川内泰三 山道幸雄 大内忠昭 井上繁雄 日高靖成 森下傳太郎 山口泰雄 相田全民 前田信行 下妻路美子 松尾昌子		
熊本	移民外事課 広報外事課 竹原勇 永原順 村田義雄 佐藤滋立 江崎賢一	藤吉昭典 柴恒修 田上義輝 渡辺一史 三浦孝雄 園木博昭 平井貴 中島洋二	国際交流室 藤吉昭典 田代健三	
大分	文書学事課 総務課(S44)~交通安全県民課(S51)消費生活県民課(S52)~県民生活課(S56) 西山正徳 松垣勝正 佐々木国博 佐田譲 青柳正吉 小原正剛 池田弘 山田照夫 池辺史子 光永尚 利光義信 江藤光一			
宮崎	農政企画課 総務課 平田鶴弥 池田秀雄 中村壯之介	成見実 高橋成登 徳末通	明珍清 津隈敏彦 松尾孟 斎藤英男 榎本征雄 青木出和也	
鹿児島	県民 (S43)~ 広報課(S52)~ 重久 弘 江沢良男 木田陽三 宮内徳弘 青崎 司 黒川紀男 吐師 学 榎山資弘 市川正 上原正己 南純男 富田健一 宮内徳弘 西山哲郎 上原正己 福元道雄 長沼慎			
沖縄	渉外課企画部県民室(S48)青少年交通安全対策室(S49)青少年婦人課(S54)国際交流課(S58) 新城鉄太郎 栗国安喜 平良正夫 川満和夫 宮城常吉 与那嶺敏光 玉城健三 垣花辰夫 津波古光勝 嶺原審 山川勇 安次富初子 下治恵治 屋宜盛昌 琉球政府 伊芸岩雄 藤井深徹 仲里繁雄 宮城信之			

## 協力隊派遣事業費の推移

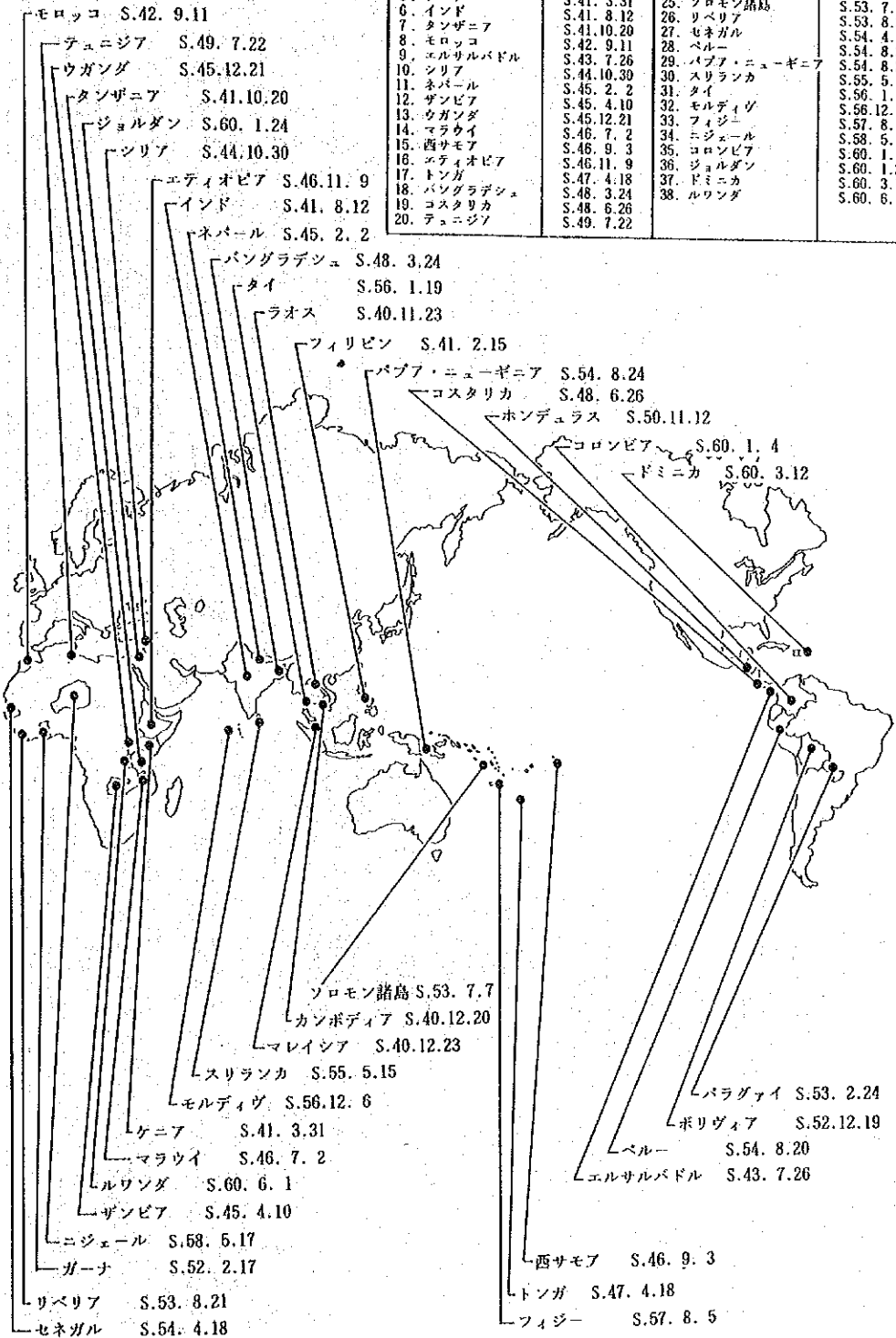
協力隊派遣事業費

年度	事業費の推移	海外手当	積立金円
40	65,134千円	150u.s.s	15,000
41	154,025	150	15,000
42	332,839	150	15,000
43	522,056	170	15,000
44	698,806	170	15,000
45	904,284	170	20,000
46	1,152,616	170	20,000
47	1,217,581	170	25,000
48	1,522,859	190	25,000
49	1,694,683	190	30,000
50	2,069,374	210	34,500
51	2,285,348	230	44,500
52	2,644,564	240	57,500
53	2,866,391	260	61,600
54	3,249,829	270	74,500
55	3,720,862	295	78,750
56	4,083,074	331	83,250
57	4,597,252	350	86,580
58	5,433,089	393	92,640
59	6,248,213	399	92,640
60	7,764,687	406	92,640

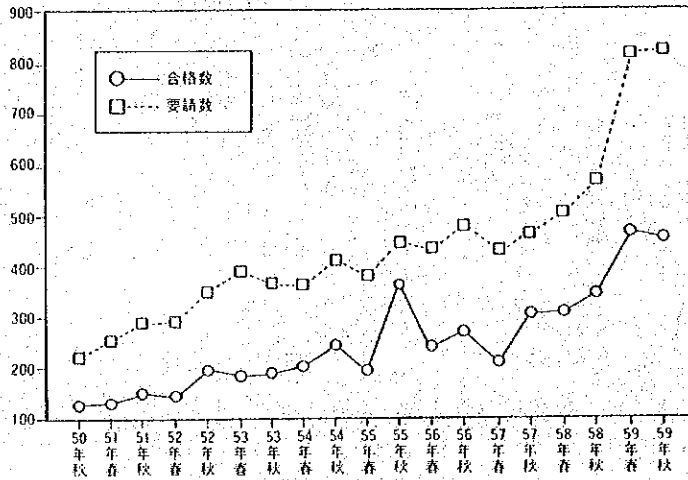


協力隊派遣取極一覽

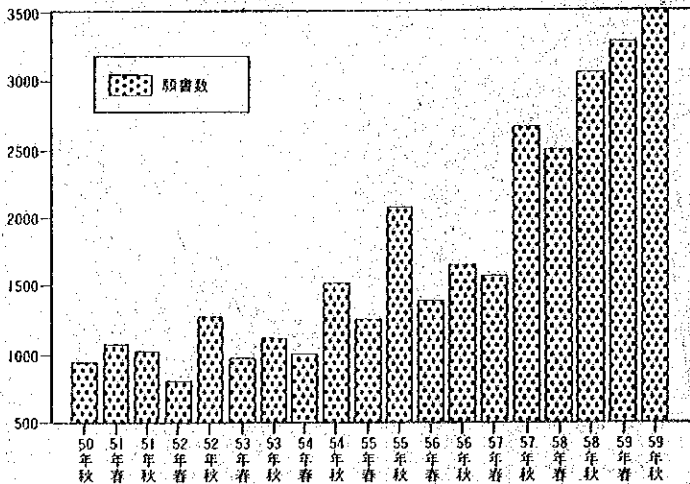
国名	締結年月日	国名	締結年月日
1. ラオス	S.40.11.23	21. ホンデュラス	S.50.11.12
2. カンボディア	S.40.12.20	22. ガーナ	S.52. 2.17
3. マレーシア	S.40.12.23	23. ボリヴェア	S.52.12.19
4. フィリピン	S.41. 2.15	24. パラグアイ	S.53. 7. 7
5. ケニア	S.41. 3.31	25. ソロモン諸島	S.53. 7. 7
6. インド	S.41. 8.12	26. リベリア	S.53. 8.21
7. タンザニア	S.41.10.20	27. セネガル	S.54. 4.18
8. モロッコ	S.42. 9.11	28. ベルー	S.54. 8.20
9. エルサルバドル	S.43. 7.26	29. パプア・ニューギニア	S.54. 8.24
10. シリア	S.44.10.30	30. スリランカ	S.55. 5.15
11. ネパール	S.45. 2. 2	31. タイ	S.56. 1.19
12. ザンビア	S.45. 4.10	32. モルディヴ	S.56.12. 6
13. ウガンダ	S.45.12.21	33. フィジー	S.57. 8. 5
14. マラウイ	S.46. 7. 2	34. ニジェール	S.58. 5.17
15. 西サモア	S.46. 9. 3	35. コロンビア	S.60. 1. 4
16. エチオピア	S.46.11. 9	36. ジョルダン	S.60. 1.24
17. トンガ	S.47. 4.18	37. ドミニカ	S.60. 3.12
18. バングラデシュ	S.48. 3.24	38. ルワンダ	S.60. 3.12
19. コスタリカ	S.48. 6.26		S.60. 6. 1
20. テュニジ	S.49. 7.22		



応募者数・要請数・合格者数推移



募集期	願書数	合格数	要請数
50年秋	946	127	222
51年春	1,066	130	254
51年秋	1,021	150	287
52年春	803	144	288
52年秋	1,273	196	351
53年春	975	185	391
53年秋	1,110	191	367
54年春	1,010	203	363
54年秋	1,518	249	412
55年春	1,248	196	381
55年秋	2,072	364	457
56年春	1,387	239	436
56年秋	1,653	271	488
57年春	1,568	213	418
57年秋	2,679	309	466
58年春	2,503	312	506
58年秋	3,072	347	569
59年春	3,290	469	816
59年秋	3,496	459	821





## 訓練所講師一覧 (昭和150~60年度 1次隊)

講師名	役職名	タイトル
樋口 清之	国学院大学教授	
鳥羽欽一郎	早稲田大学教授	
三井 源三	日本熱帯医学協会常務理事	
小森 栄一	国際救急法研究所長	救急法
山本 茂実	作家	日本人の国民性、自分の哲学を持って
高橋 彰	東京大学助教授	
竹本 忠雄	日本ユウホク協会連盟事務局長	国際社会における日本の文化
菊池 靖	早稲田大学助教授	日本の文化
マリン・ベイ	外国特派員協会	開発と文化
衛藤 藩吉	東京大学教授	南北問題入門
深田 裕介	日本航空広報室次長	
馬場 公一	経済企画庁	援助とは何か
沼田 真	千葉大学教授	植物生態学入門
佐藤日出夫	東京コンパイングループ代表	経済人類学入門
竹村 健一	評論家	特別シブシューム
松原 泰道	龍源寺住職	イ顔・ヌな顔
金山 宜夫	国際問題評論家	異文化の国境をどう越えるか
大隈 秀夫	評論家	文章作法
江木 武彦	言論科学振興会	話し方作法
川勝 久	産業能率短大講師	知的表現の方法
三木 正	武蔵野女子大講師	論文レポートの書き方
青木 玲子	聖心女子大助教授	国際マナー
竹本 寛	日本チェス連盟講師	チェスのやり方
池間 博文	日本レクリエーション協会主幹	レクリエーション手法
小野坂 東	マゾクランド講師	ハンカの遊び方
高木 重郎	日本奇術連盟副会長	簡単な手品
海老沢 功	東大医科研助教授	熱帯衛生について
吉田 紀彦	本田技研工業	交通安全ガイダンス
松原 哲明	龍源寺住職	広く豊かに生きよう
西丸 震也	農林省	生き抜く道
岩村 昇	神戸大学教授	草の根の人々と共に生きる
稲村 博	筑波大学助教授	精神衛生講座
斎藤 優	中央大学教授	国造りの適性技術
清水 良隆	日本レクリエーション協会次長	レクリエーション手法
宇田川 規夫	国際救急法研究所事務局長	救急法
鈴木 孝夫	慶応大学教授	外国人とのコミュニケーション
末次 一郎	総理府青少年問題審議会	特別講座
本行 孝司	中央青少年団体連絡協議会	〃
広野 良吉	成蹊大学教授	異文化の理解と適応
祐成 善次	日本青年奉仕会常務理事	
大隈 紀和	国立教育研究所主任研究官	手造り教材開発
河合 雅雄	京大霊長類研究所長	丸から学ぶ

豊田 俊雄	アジア経済研究所	途上国の社会経済発展と教育開発
上田 将	東京経済大学教授	文化人類学入門
菅又 淳	教立精神衛生センター所長	精神衛生講座
岩田 慶治	東京工業大学教授	民族・文化・国家
土居 健郎	東京大学教授	日本人の甘えの構造
川田 侃	上智大学教授	南北問題入門
末次 融	東京教育大学講師	論文・レポートの書き方
染谷 臣道	帯広畜産大学助教授	文化移転の方法
青山 敏彦	日本体育大学教授	体育特別講座
柳原 伊織	慶応大学助教授	外国人とのコミュニケーション
守屋 庸雄	東京外国語大学教授	外国語学習にあたっての心構え
小島 直記	作家	特別講座
伴 正一	弁護士（元協力隊事務局長）	協力隊におけるロマティズム
染谷 臣道	帯広畜産大学助教授	文化移転の方法
岩尾 一敏	ヤマハ発動機株式会社	交通安全がタス
吉田 直哉	NIKK チーフディレクター	南と北の世紀末
木村 秀雄	亜細亜大学講師	異文化理解について
村山 元秀	千葉大学教授	日本人が誤解されるとき
清水 展	東京大学東洋文化研究所助手	異文化の理解をめぐる
小林 達也	中央大学教授	技術文明を考える
足立 己幸	女子栄養大学教授	地域開発と食生活
鈴木 義昭	蔵沢寺住職	生きがいについて

順不同

<語学講師一覧>

氏名	言語
加藤 章子	仏語
Pierre G. Denoreaz	英語
Lila R. Saavedra	マレー語
Amir Hamzah Bin A. Hamid	ネパール語
Lobsang T. Sherpa	ベンガル語
Munshi K. Azad	タイ語
Surapha Rojanavipart	

(注) 昭和60年現在で在職4年以上

## 隊員編纂による教科書等

- 今野 純 The Basic Principles of Coaching in Competitive Swimming, 1972, フィリピン  
 中村 樗 Handball, Softball and Touch Football: Rules and Training Methods, 1976, ケニア  
 小林保、坪迪子、村上謙、佐々木せい子、島津朋子、井上昌夫、山口正一 野菜栽培手引書  
 1979, マレーシア  
 塚田 幸三 Handbook on Diseases Transmissible between Man and Animals, 1980, サンビア  
 杉沢 久邦 Basic Theories and Experiments in Electricity, 1980, フィリピン  
 大島良、御園生道子 Drafting Tailoring (被服製図), 1980, マレーシア  
 広川俊男、矢守亜美 Un Ejemplo de Progresion y Metodo de Ensenanza para los Principiantes en la Natacion  
 (水泳初心者用テキスト), 1980, コスタリカ  
 北垣 俊夫 Fundamentals of Ceramics, 1980, フィリピン  
 岡村 繁 地中海魚類図鑑, 1980, シリア  
 仲村 隆吾 基礎物理, 1980, ホンデュラス  
 岡田美智子 編物テキスト, 1981, マレーシア  
 牧野 千秋 東京工業大学写真科教科書, 1981, マレーシア  
 在フィリピン協力隊 畜産隊員マニュアル, 1981  
 小沼 広幸 シリアの畜産, 1981  
 白木 順一 Arte (芸術), 1981, ホンデュラス  
 矢守 亜美 La Guia de Nado Sincronizado (シンクロナイズ水泳手引), 1981, コスタリカ  
 武藤 一郎 The Designing of Mwanza Abattoir Project Tanzania, East Africa, 1981, タンザニア  
 北之園慎之 Fishing Gear Manua, 1982, ケニア  
 駒形 光彦 Las Enfermedades de Aves (鶏の病気), 1982, パラグアイ  
 Las Enfermedades de Aves - Volume 2 (鶏の病気2), 1982, パラグアイ  
 泉田 英雄 建築テキスト, 1982, マレーシア  
 白田はじめ Kimia Analisis dan Kimia Sekiteran (化学分析), 1982, マレーシア  
 竹内良行、荒木薫 Pertukangan Kayu Kamus Tanggam 244 (ジョイント244 に関する木工手引) マレーシア  
 堀川 満 パラグアイ・アルトパラナ (ピラゴ) 日本人移住地の小中学生の体格と体力, 1982, パラグアイ  
 芳川 陽二 Study of the Woodpest Problems of Fast-growing Trees Species in the Tropical Forestry in Sabah,  
 1982, マレーシア  
 中島 直樹 電子機器—ラジオ・テレビの問題と解答集, 1982, マレーシア  
 長谷川哲士 モロッコの樹木, 1982, モロッコ  
 佐藤秀、木村輝美、伊藤朱実、文屋早智子 幼稚園教育参考資料, 1982, マレーシア  
 バングラデシュ農業隊員 野菜栽培ハンドブック, 1982, バングラデシュ  
 JOCV バングラデシュにおける日本の農業協力  
 木田 親典 竹工芸マニュアル, 1983, コスタリカ  
 清水 初男 Check-Points for maintenance of Agricultural Machinery, 1983, シリア  
 米田 公生 サモア語辞書, 1983  
 西サモアの生活ガイド, 1983  
 牧野 嘉弘 サバ西海岸の漁具漁法, 1983, マレーシア  
 今井、大竹、佐藤、葛藤 初級日本語事典, 1984, テュニジア  
 上村 秀之 畜産隊員マニュアル人工授精編, 1984, フィリピン  
 清水 初男 農業機械維持のための点検, 1984, シリア  
 岡谷 利幸 搾乳機械の原理と維持, 1984, シリア  
 江塚 利幸 灌漑施設, 1984, ベル  
 卜部 秀明 Shrubs and Trees of Landscape Design in Bangladesh, 1984, バングラデッシュ  
 酒井 千博 尖用製図ハンドブック, 1984, タンザニア  
 綿谷 章 Analisis Estadistico de los Registros Atheticos Obtenidos en el Campeonato Nacional-Categoria  
 Mayoresanos 1983-1984 (1983-1984年国体の体操競技に関する報告書), ベル  
 金山美和子 木朗江 石護技術マニュアル, 1985, シリア  
 西岡 哲 自動車整備用語事典, 1985, エチオピア  
 飯野 一男 職業教育における溶接, 1985, タイ  
 市之瀬隆二 建築機械修理用データブック, 1985, フィリピン  
 北窓 時男 人白漁礁設営, 1985, フィリピン  
 中藤 優子 おりがみの木, 1985, スリランカ  
 尖戸 雅宏 ディヴィヒ語入門, 1985, モルディブ

## 国会会議録協力隊関係抜すい

## ●S59/3/17 参議院予算委員会

○宮澤弘君(広島自) それから府県の職員につきましては、県が休職条例をつくって身分を安定させて派遣をする、こういうことになっておりますが、現在47の府県のうちで30条例ができております。17はまだできておりません。これをつくることにつきまして、どうも自治省の事務当局は消局的であるというような話を聞いておりますけれども、これは私はどうも了見が違ふと思うんです。自治大臣、あと残っております十数の府県の条例をつくることにつきましてぜひ前向きに指導をしていただきたいと思ひます。いかがでございますか。

○國務大臣(田川誠一君) 青年海外協力隊の事業は大変日本にとって大事なことでありまして、私も以前から評価をしております。地方自治体の職員の中からも随分今まで行っておりますが、御指摘のように地方自治体の中には、まだ休職条例をつくっていないところもございます。聞いてみますと、国庫補助の基準の問題とか、あるいは最近定員の管理の問題、人員をどんどん削っていかねばならぬという苦しい問題もございます。しかし、事柄の重要性から残る団体に対してもそういうような機運が醸成されるように指導してまいりたいと思っております。

○宮澤弘君 民間の人たちにとりましては、やはり休職のまま行けるということと、それから帰ってからの就職の問題、これが重要でございます。

そこで、総理に伺いますが、政府あるいは自治体の職員あるいは民間の職員を問わず協力隊を志す者は受験が容易にできて、それから合格をしたならば後援の養いなく行けるというようなことにさらに政府を挙げて努力をしていただきたい、いかがでございますか。

○総理大臣(中曾根康弘君) その点は全く同感でございます。海外へ行ってみまして、協力隊員の皆さんが現地に溶け込んで涙ぐましい努力と成果を上げておられるのを見て感激しておる次第でございます。身分保障をしっかりやっていたら、安心して海外で働き、また帰ってきてからも心配のないようにしてあげることが国家の責任であると思ひまして、官庁と民間とを問わず、そういう方面に今後とも努力してまいりたいと思っております。

○宮澤弘君 次に、開発途上国への政府の開発援助について承りたいと思ひます。このうちODAの中期目標達成の問題は既に議論が出ておりますので、私は青年協力隊の問題に絞って伺いたいと思ひます。

青年協力隊の事業は、技術協力を通じて隊員が派遣された国との友好を築くということが目的でございますけれども、私は、同時にこの事業は日本民族のバイタリティー、これを養う上からいっても極めて有益だと思ひます。若い人が電気も水道もないような主地に飛び込んでいきまして自分を試していく、人間形成のためにも個人的に貴重な経験でございます。同時に、個人に有益であるばかりでなく、帰国した隊員が住む地域社会やそれから就業先の事業場、こういうところにまた活力を与えていく、こういうことだろうと思ひます。

そこで、まず外務大臣に伺いますが、派遣隊の数の問題。59年度は500人から650人に増加しまして、大変これは結構なことだと思ひますけれども、まだアメリカの例えは5,000人というような数に到底及びません。そこで60年度に800人にするという計画をお持ちのようでございますが、これをぜひ実現をしていただきたいと思ひます。

れども、所信のほどを伺いたいと思ひます。

○國務大臣(安倍晋太郎君) お話のように、青年海外協力隊の活動につきましては開発途上国から大変高い評価を受けておるわけでございます。そして、そうした諸国からも協力隊派遣に対する要請はますます増加しておる、大変そういう意味では喜ばしい。我が国の海外協力というものが本当に何かにつたといいますが、評価をされたということでも我々は非常に喜んでおるわけでございますが、そのために国際協力事業団では、昭和58年度より60年度までの3年間で年間の新規派遣隊員数を57年度派遣規模の倍増の800名にする計画を打ち出してございまして、その初年度に当たる58年度は前年度比70名増の500名分の予算が認められました。また、59年度の政府原案におきましては、150名増の650名に拡大するための予算を計上をいたしておるわけでございます。そうなりますと、あと800名までには150名ということですから、これはもう十分可能性のあるところまで来ておるわけでございまして、これは必ず倍増は実行をするために今後とも努力をしてまいる決意でありまして、また倍増ができる、こういうふうに思っているわけでございます。

○宮澤弘君 協力隊派遣の問題は、隊員の帰国後の就職等の身分保障の問題、これが一番問題でございます。現職の身分を持って行ければいいのでありますけれども、日本のように終身雇用、年功序列の国ではなかなかそういうわけにまいりません。そこで、試験に受かりましても参加を断念をしたり、あるいは退職して参加することを余儀なくされる、こういう事例が少なくございません。

そこで、事務当局にまず伺いますが、57年度の参加者で、現職で参加した者と退職して参加した者と、それから職がなくして参加した者、この人数とパーセンテージを伺いたいと思ひます。

○政府委員(柳健一君) 昭和57年度におきまして、協力隊への年間参加者総数は458名でございます。そのうち現職参加者は90名で全体の20%、退職参加者は233名で51%、無職者の参加者は135名で29%となっております。以前のたいの傾向を見ましても、大体現職参加者が20%、退職参加者が50%、無職参加者が30%という比率になっております。

○宮澤弘君 退職参加者が50%以上いるということが問題だと思ひます。昨年、総理がA S E A N に行かれまして、それ以来、この協力隊員の身分保障につきましては指示を行われて随分事態は改善をされたと思ひますけれども、依然として問題が残っております。

多少伺ってみたいと思ひますが、まず国家公務員につきましては、協力隊に参加をいたします場合、派遣法という国家公務員が国際機関等に派遣をされる場合の身分に関する法律がございます。派遣法の適用はございますが、その場合に、どうもこの派遣法を適用されますと、定員外の枠というのがありまして、枠に制約をされて希望者の中には断念をする者が少なくないというふうに聞いております。受験をいたします際に上司の許可を求めに行きますと、役所の都合が悪いとか、あるいは派遣法の定員の枠がある、こういう話が出てくるようであります。

そこで、これは各省の問題であります。代表して外務大臣に伺いますが、派遣法に言います定員外の枠の運用を弾力的にさせていただいて、希望者は全部受験できるし、試験に通った者はひとつ派遣法の適用を全部受けられる、こういうような弾力的な運用をしていただきたい、

いかがでございますか。

○国務大臣(安倍晋太郎君) 過去におきまして、青年海外協力隊の選考試験に合格しながらも派遣法の適用が受けられないで参加を断念した者もございましたが、関係省庁の御理解をいただいた結果、58年度におきましては、試験に合格した8名全員が派遣法の適用を受けたわけであります。今後とも派遣法の適用につきましては関係各省に働きかけていく考えてあります。

他方、協力隊への参加を希望しながら受験できなかった、いわゆる門前払いとなった例があるか否かにつきましては、まだ充分実態を把握していないわけでございますが、しかしながら、協力隊の事業というのが我が国の内外から非常に高い評価を受けておるわけでありますので、したがってこのような事例があるとするれば残念でありますし、今後こうした事態が避けられるように関係各省に働きかけてまいりたい、ぜひともこの事業をやはり関係各省庁の協力のもとに積極的に推進をしていきたい、こういうふうな存じております。

○宮澤弘君 門前払いの例はあるようでございますから、どうぞ善処をしていただきたいと思ひます。

#### ●S59/3/31 参議院外務委員会

○坂山映子君(兵庫民) 青年海外協力隊の隊員が国内に帰国いたしました折に、派遣時間が就職とかあるいはキャリアの面でマイナスになるということ、若い人が海外青年海外協力隊に行きたいと思ひながら、日本でのデメリットを考えてやめるというケースも多いようでございますので、ひとつ、海外派遣期間についてマイナスにならないような身分措置をお考えいただけたらうれしいと思ひます。

#### ●S59/4/3 参議院予算委員会

○中西珠子君(比例公) 現職派遣につきまして、地方で国家公務員の派遣法のような条例ができておりますか。自治省、お願いいたします。

○国務大臣(田川誠一君) 昭和58年3月現在で、都道府県につきましては、29団体、これが体験条例措置を講じております。それから職務専念義務の免除により派遣をした実績を有します団体が8団体となっております。補助金が少ないのと地方の定員の管理の問題がありまして、十分ではございません。しかし、非常に重要な仕事でございますので、なるべくこの機運を醸成してまいりたい、このように思っております。

○中西珠子君 先ほど大蔵大臣にもお願いしたのですが、それは地方で国家公務員に適用する派遣法のようなものをつくる可能性につきまして、これは補助金が少ないという今の自治大臣のお話でございますが、いかがなものでございませうか。

○国務大臣(竹下登君) 青年海外協力隊員、これは私が今から20年ほど前にケネディさんのピーヌコー、ジャバニーズ、ピーヌコーというつもりで始めまして、そうしたら、ケネディさんと私の力のアンバランスとでも申しましょうか、こちらは20人ぐらいで向こうは2,000人ぐらい、こういうことになりまして、そのときある種の虚脱感を感じた、これは若き日の思い出でございます。それから今日充実して、どこへ行っても大変愛されております。これが予算ということ、それこそたえそれが一粒の麦となろうともというふうなある種のロマンを持ちながらやってまいりました。その帰国後の就職、特に技

術関係の人は向こうへ行っておる間、それだけおくれて帰ってくる、こういうようなことがございましたので、いろんな経緯をたどってきて今日この状態になったわけです。海外へ先生もお出かけいただきますと、必ずといっていいごとく、どこの地域においても、たとえみんなじゃなくても、一人で訪ねて来て話を聞くということは非常に楽しいことだと思っております。そういうかわりから、この予算に対して今日まで自分なりに関係してきたところでございまして、これからも当然これは外務省の方でいろいろお考えいただくことでございますが、財政当局としてもその実態に対応すると。私が大蔵大臣でありましようとも、なかりましようとも、そういうものではないかというふうな理解をいたしております。

#### ●S60/3/8 衆議院予算委員会

○森本分科員(奈良公) 一略一日本の協力援助の歴史の中で、青年海外協力隊の位置づけと将来の展望をどのようにお考えになっているのか、まず大臣にお伺いしたいと思います。

○安倍国務大臣 一略一特に青年協力隊の派遣につきましては、これは日本の海外協力の中で最も成功した事業の一つであろうと私は思っております。私自身も、開発途上国等、アフリカには4割の青年協力隊が働いていただいておりますが、アフリカに行ってみても、この青年協力隊の働いておられるその真剣なあるいは情熱を持って取り組んでおる姿というのが、それぞれの国の共感と支持を大変得ております。それが日本に対する大変いい印象につながっておりますのでございまして、そこで60年度予算も隊員の派遣の増加を行ったわけでございまして。

これは20周年を踏まえて、いろいろと待遇等について改善すべき点も私はあるように思ひますから、そういう点も含めこの事業をさらに活発にしていくことが、これからの開発途上国と日本との結びつき、ただ経済援助という姿だけではなくて心と心のつながる、そうした青年協力隊の派遣がいかに大きいかを認識しながら努力を重ねていかなきゃならぬ。まさにそういう面では、ことしはこれからの新しい発展への大きな礎石を築かなきゃならない年じゃないか、こういうふうな思っております。お話の点については全く同感でありますし、今申し上げました趣旨を踏まえてこれから努力を重ねていきたい、こう思ひます。

○森本分科員 一略一佐久間君が亡くなって、御家族といろいろとお話し合いをさせていただいたのですが、家族の心情を思ひますと、どうしても、ここで本来ならば我々にかかわって海外友交のために頑張ってくれた人たちのために顕彰し、総理大臣が安倍外務大臣から、例えて言うならば各協力隊員の称号を与えていただくとか協力隊の旗を大臣名で贈っていただくとか、御家族の気持ちにこたえるべく何かがあってもいいんじゃないか、このように思ふ次第でございます。

総理が海外に行かれて、青年協力隊の皆さんの働いている姿を見て、これは顕彰しなければならぬなと2年ほど前におっしゃったと伺っております。それは元気で帰りに来た人たちのことも含めてでございます。しかし、総理にそういう気持ちがあつて、この協力隊が大変大事だというのがあれば、まず亡くなった功労者の方々をきちんと顕彰すべきだ、私はこのように考えてお

りますが、大臣、いかがでございましょうか。

○安倍外務大臣 一略一幸にいたしました20年を迎えるわけで、これまでの協力隊事業のあり方等も踏まえて、いろいろと反省もしなければなりませんし、これからさらにこの制度を発展させなければならぬというときでございまして、今お話しの際は十分踏まえさせていただきまして、亡くなられた協力隊員の方々、同時にまた協力隊員として努力されてこられた方々に対する表彰あるいは顕彰の制度をこの機会に発足させたいものだ、こういうふうに思います。これはこれから検討いたしまして、20周年の記念の式典を盛大に行いたい、こう思っておりますから、それまでにひとつ間に合わせるようにしたいものだ、こう思っておりますし、ぜひともそういう方向で進める考えてあります。

○森本分科委員 海外の医療制度をもっと充実してもらえないだろうか。隊員が心身ともに健康で任務を全うするには、自己管理は当然ではございますけれども、現地での健康管理がやはり一番必要かと思っております。そこで、その医療体制について御回答をいただきたいと思っております。

○藤田(公)政府委員 たまたま御質問の海外協力隊員の海外派遣中の健康管理でございすけれども、まず、出発される前にそういう面でのガイダンスといたしまして、健康記録簿というものを作成いたしまして、国内訓練中に海外における健康の状況を常時記入できるようにした上で、出発していただくことしております。

海外に到着しましてからの健康管理、これが大事なわけですが、現地に回しまして嘱託医というのを指定いたしまして、1年に2回健康診断を実施するというところを行っております。それに加えて、特に医療状況に問題があるという国につきましては、婦人の、協力隊としてやっておられました特に看護婦さんを、OBではなくてOGと申しておりますが、その方々を調整員という形で派遣いたしまして、協力隊の健康管理に常時当たっていただいているということで、現在5か国にこのような看護婦さん出身の調整員というものを派遣いたしております。

○竹村分科委員(北海道)無 帰国者の経験を大学とか専門学校とか研究機関などで引き継ぎ生かしていく、研究指導ができるような道をお聞きになってはどうかと思っておりました。例えばアフリカの農業なんかのことは見ましても、日本の農業技術をそのまま持ち込んでも成功するものではない、大変難しいと聞いております。現地で試行錯誤しながら苦学して学んできたという経験を、後進の指導に役立たせるということが極めて大切と思われましても、大学や研究機関の門戸は必ずしも開かれていないのではないのでしょうか。経験者の実践的な指導を受けた生徒がアフリカへ行く、あるいはアジアの国々にも行くということがあれば大変素晴らしいことだと私は思いますけれども、学問というのはそういうものではないか。実際的な体験を役立たせる道といえますか、いかがでしょうか。

○藤田(公)政府委員 例えばアフリカの農業などにその経験を生かすべきだという御指摘につきましては、先般11月に安倍大臣がアフリカを御訪問になりましたときに、やはりアフリカの農業問題に腰を据えて基本的に取り組んでいくべきだというお考えから、アフリカの農業に關します総合的なミッションを来月派遣いたしますが、そのミッションのお考え方も、やはり重点国につきましては日本の農業のプロジェクトをつくりまして、青年協力隊のOBの方々などで経験の深い方にそこに駐在してい

ただいて、研究及び指導を進めるといことがいいのではないかというお考えが浮かんできている状況にございます。

それからもう一つ、つけ加えさせていただきますと、OBの方で4,000名のうち約2割の方が、何らかの形で海外で今御在勤中でありまして、JICAの専門家という形で勤務しておられる方が今まで210名おられます。ちなみに、外務省も青年協力隊の出身の方を現在までに5名採用いたしております、活動を願っているという状況にございます。

○竹村分科委員 文部省では、所管ではないとおっしゃいますけれども、やはりこれは大変大切なことであり、ぜひいろいろな部門でお考えいただきたいことだと思います。例えば教育、文化関係の方たち、24.5%ですが、大変多く行っておられるわけですね。しかし、帰ってきて先生になれるという保証は全くないし、なれない例が多いという問題もあるわけですから、文部省で余り青年海外協力隊のOBのことまで考えていらっしゃるならなかったんじゃないかなと思いますけれども、今後の課題としてぜひお考えいただきたいと思っております。よろしいですか。

○倉地説明員 今先生のお話のありました教員の問題でございすけれども、私も承知しているところによりまして、多くの者は体職とか職務専念義務の免除という形で行ってまいりますので、帰ってきても弊がつかないということ、スムーズにいらっしゃるわけにございす。ただ、県によりましては、そのような制度をとっていないところもあるわけにございすので、今後、各県のその辺の実情をよく調査いたしまして十分適切な指導をしてみたい、そのように考えておるわけにございす。

○竹村分科委員 一略一若い協力隊の方たちの将来を真剣になって心配してやっておられるかどうか。職業安定所、雇用問題の主管官庁である労働省は、このことでどう対応しておられますでしょうか。能力の開発、雇用政策の一環として、海外技術協力を労働政策にしっかりと組み込んで位置づけて、そして中長期的の視点を持って対処すべきではないかと思っておりますけれども、労働省いかがですか。

○佐藤(平)説明員 労働省といたしましては、海外協力隊の意義が必ずしも必要性については十分に認識しているところでございす。そこで、私もといたしましては、民間企業において働いておられる方が外国に行かれて大いにそういう点で活躍して、また帰ってこられて職場でその力を発揮していただけるような措置は重要であると思っておりますが、今後十分外務省とも連絡をとりながら、どういった措置が必要であるかということとはさらに検討してまいりたいと考えております。

○竹村分科委員 大臣にお聞きしたいのですけれども、技術協力は相手国との人と人との関係、それだけによきにつけあしきにつけ影響するところは、はるかに私たちの手前を超えらるものがあると思うわけですが、他国の物まねとかおぞなりでは済まないと思うわけですが、協力隊に対する政府の基本姿勢を明らかにしていただきたいと思っております。

○安倍外務大臣 青年海外協力隊につきましては、先ほどもお話がありましたように、私も、日本が行っておる海外協力事業の中で最も成功した例の一つだと思っております。20年の歴史を経ておりまして、確実に定着をしております。同時にまた、海外の評価も非常に高いわけでありまして、特に、私は昨年アフリカを訪問しまして、アブ

リカでは4割の協力隊員が活躍しておりますが、今のアフリカのあの惨憺たる状況の中で、救世主のごとく大変な評価を受けて一生懸命に働いておられる協力隊員の皆さんの姿に非常に感銘を受けたような次第であります。これからの日本が平和国家として積極的に世界に貢献していくには、やはり青年協力隊のような事業を充実していくことが非常に重要じゃないかと思っております。

そういうことで、今回も厳しい予算の中で隊員の数をふやしたわけですが、今後ともこうした事業の拡大については努力を重ねていきたい。同時に、ちょうど20年たって、ごとし20周年の記念事業もやりたいと思っておりますが、20周年でやはりいろいろ今日までのあり方等について反省もしなければならぬ点もあると思っております。特に、先ほどからお話しの漏れてからの再就職の問題等は、これから本当に安心して働いてもらうように、困としても自給体にお願いをすとか、積極的な努力をなさなければ、こういうふうにも思っておりますし、同時に内容の問題で、協力隊の内容の問題、質の問題とありますが、そうした面についても向上を図っていくということも必要であろうと思うわけでありますし、また海外からの需要の半分も消化してないという状況でございますから、まずやはりこれを拡大していくということに、ごとし20周年一つの礎石といいますか再スタートの年として、あらゆる面について充実を図っていくかなきゃならぬ。これだけ成功した事業ですから、確実にこれを進めていくことが日本の世界に対する責任を果たしていく、あるいは世界からの信頼を確保していく上において極めて必要である、こういうふうになっております。

○宮澤弘君 ODAの問題と関連をいたしまして、最後に青年海外協力隊の問題について伺います。

この青年海外協力隊につきましては政府も随分努力をされて、今年間800人でございますが、送り出せるような体制になっておりますが、例えばアメリカでございますと、あれは3,000人か4,000人、大分これは倍たが違います。そして、外務省の事務当局に伺いますと、また途上国の要請というのは非常に多い、それから国内の若い人の応募者も何倍かかなり多い。こういうことでございます。青年海外協力隊というのは途上国の発展に貢献をし、また途上国との親善を深めますとありますと同時に、私はこういう青年のエネルギーというものが日本の将来に非常に大きな役に立つということ、この制度を高く評価をいたしております。

そこで、ODA全般の問題もござりますが、特に協力隊につきましては、例えば大きなダムをつくるとか発電所をつくるとかは大変大きな金がかかりますけれども、協力隊につきましてはそんなに大きな金がかかるわけではございません。そこで、ODA全体もそうでございますが、この青年海外協力隊につきましては、ぜひ今後新たに拡充の方針というが、計画を立てて実施をしていただきたい、こう思いますが、いかがでございますか。○国務大臣(安倍晋太郎君) 年々増加をいたしておりますが、途上国からの隊員派遣要請、これは非常に海外からそういう要請が強いわけて、恐らくこの隊員全体の3倍以上の要請があります。昭和58年より3年間で年間新規派遣隊員数を800名に倍増するということとしまして、昭和60年度予算によりまして一応達成したわけでございますが、政府としましては、本件事業が内外で極めて高い評価を受けておること、草の根レベルの協力あるいは

ボランティアの精神といった本件事業の特性を踏まえまして、さらには優秀な人材確保、隊員の後方支援体制の充実等の質的な向上にも留意しながら、今後とも本件事業の拡充に努めてまいり所存でございます。今の宮澤委員のおっしゃるとおり、これはODAとともにまさに日本の大きな開発途上国に対する貢献につながっていく、本当に草の根レベルの交流というのがいかに大事であるかということをもっと意識するものであろうというふうに私は思っており、これには大いに力を入れていきたいと考えております。

○宮澤弘君 総理、協力隊については大変御理解をお待ちだと思いますが、いかがでございますか。一言でよろしゅうございます。

○総理大臣(中曽根康弘君) 協力隊の皆さんがこの公共目的に従事されて懸命に各地において努力をされ、成果を上げられておることに非常に敬意を表します。従来、年間300人から400人ぐらいございましたが、60年度予算においてはたしか800人までふやしておるはずであります。このような勢いで今後も努力してまいりたい。また、協力隊の皆さんの培ってきた後のアフターケア、職業の問題とかその他の問題、あるいは医療の問題、そういうような問題についてもきめ細かくこれから注意していきたいと思っております。

#### ●S60/3/15 参議院予算委員会

○林健太郎君(比例自民) 一略一それからもう一つ、これは質問ではありませんが、青年海外協力隊ですね、あれは私、非常に感心しているものです。日本の若者は近頃は何かだらしがないとか、いかになんて言う人間まゝおりますけれども、外国へ行っているあの連中見ますと実に感心ですね。立派な人間がおります。しかも日本人の優秀性を非常に発揮して、しかも現地へ飛び込んで感謝されているというような若い青年がたくさんおりますね。ですから、こちらの方の予算もどうかひとつふえるようにやっていたらいいというわけがあります。

#### ●S60/4/2 参議院外務委員会

○和田教美君(比例公) 結構だと思っておりますけれども、草の根のレベルの技術協力という意味で青年海外協力隊の増強というふうな項目がございますが、これも非常に重要だと私は思う。今までは年間650人ぐらい派遣していたのを今度は年内800人ぐらいにふやすというような計画のようでございますけれども、そこで問題は、前々からの問題でございけれども、青年海外協力隊員の身分保障ですね。現職のまま出かける人もおられるけれども、あるいはまた休職になって出かける人もおられるけれども、一たん職を離れて出かけて2年間やって、帰ってきたらなかなか就職がないというふうなケースもあるわけで、この辺はまだ十分ではないと思うのですが、この辺はどうお考えでしょうか。

○政府委員(藤田公郎君) 確かに先生御指摘のとおり、60年度予算では年間800名の増員を認めていただいておりますが、この身分の点について見ますと、非常に総括的な数字で申しますと、現職参加をしておられる方が2割、それから退職して参加される方が3割、それから無職の方3割こういう状況でございます。したがいまして、身分の安定を図るといことが今後の青年協力隊の質を高めていくというバックアップ態勢を固めるという点から非常に大事かと思われま。

# 協力隊年表

3 6 61	4/5 自民党青年部「日本の産業開発青年隊と米國「平和部隊」との協力体制確立に関する要綱(案)」 4/20 自民党青年部「日本平和部隊構想」 6/ 海外産業開発協力隊推進委員会「海外産業開発協力隊」(日本平和部隊)(案) 36/8~9 自民党調査団 東南アジア視察	3/1 ケネディ・アメリカ大統領平和部隊設置に関する行政命令に署名	
		12/ 因連第18回總會「開発の10年」決議	
3 7 62	6/ 海外技術協力事業団設立		12/ ネパール新憲法公布
3 8 63	8/ 自民党全国組織委員会青年局の呼び掛けで「日本青年奉仕隊推進協議会」発足 8/14 自民党全国組織委員会青年局「日本平和部隊要綱(案)」 8/ 「日本青年奉仕隊」推進協議会「『日本青年奉仕隊』(仮称)に関する要綱」 8/ 日本建業中央本部「日本海外協力青年隊」(仮称)に関する要綱		12/12 ケニア独立
3 9 64	39年度施政方針演説 油田首相 青年技術者海外派遣を明らかにす 1/ 「日本青年奉仕隊」推進協議会海外調査委員会「日本青年奉仕隊」海外調査について 3/ 自民党秋萩調査会「日本青年海外奉仕隊」に関する特別委員会設置 3/15 「平和建設隊推進本部の目標と任務」民社党アジア・アフリカ平和建設隊推進本部 5/ 「奉仕隊派遣の可能性」について4調査団派遣		7/6 マラウイ独立 10/1 東海道新幹線開業 10/10 第18回ワシントン東京で開催 10/24 ゼンビア独立 10/29 タンザニア連合共和国
4 0 65	1/15 外務省「日本青年海外協力隊要綱(案)」 1/ 日本青年海外協力隊設立準備事務局発足 4/20 協力隊事務局開設・幹部公夫事務局長就任 5/ 日本青年海外協力隊実施協議 5/12 外務省「日本青年海外協力隊要綱について」通知 6/10 協力隊全国協議会結成総会 7/1 機関誌「若い力」創刊 9/24 1次隊員選考試験 10/15 マレーシアに初めて駐在員派遣 10/11~12/10 初の派遣前訓練開始 11/11 日本青年海外協力隊後援会発足 11/23 ラオス協力隊派遣取極ワエンチャンにて締結1番目 12/5 日本青年海外協力隊1次派遣を記念して記念タバコ(ピース)発売 12/11 1次隊社行会於新宿駅ビル7階 12/11~19日本青年海外協力隊展於新宿駅ビル6階 12/20 カンボディア協力隊派遣取極プノンペンにて締結2番目 12/21 第1次隊皇太子・同妃両殿下御接見(行ね・カサガ) 12/23 マレーシア協力隊派遣取極クアラルンプールにて締結3番目 12/24 ラオス5名出発 初派遣		9/1 印パ戦争
4 1 66	1/9 カンボディア4名出発 派遣国2カ国となる 1/14 皇太子・同妃両殿下御接見(マレーシア) 1/15 マレーシア5名出発 派遣国3カ国となる 1/24 第2次隊18名訓練入所(根岸海外移住センター) 2/15 フィリピン協力隊派遣取極マニラにて締結4番目 2/19 皇太子・同妃両殿下御接見(フィピン) 2/22 フィリピン12名出発 派遣国4カ国となる 3/30 ケニア3名出発 派遣国5カ国となる 3/31 ケニア協力隊派遣取極ナイロビにて締結5番目 5/10 日本青年海外協力隊全国協議会開催 5/24 41/1次隊選考試験 6/13 41/1次隊訓練入所(30名) 7/27 日本青年海外協力隊隊員家族会 7/30 タンザニアから洋基等127名の要請 8/ 隊員バッチ完成 8/8 志願者のための無料語学研修室開設 8/12 インド協力隊派遣取極ニューデリーにて締結6番目 8/30~9/3 ラオス・ワエンチャン大洪水、2隊員浄水場を守る 9/12 41/2次隊入所(43名) 9/18 インド9名出発 派遣国6カ国となる 10/20 タンザニア協力隊派遣取極ダルエスサラームにて締結7番目		11/24 アジア開発銀行設立
4 2 67	3/17 佐藤首相衆議院本会議にて「協力隊を強化したい」旨答弁 3/30 タンザニア30名出発 派遣国7カ国となる 6/1 タンザニアに初めて駐在員派遣 6/ 協力隊記録映画「若い力」アジア版完成 7/5 ラオスに初めて駐在員派遣 7/19 都道府県担当者連絡会議37県等出席 8/ 「日本青年海外協力隊アジア・アフリカ研究会」設立 9/11 モロッコ協力隊派遣取極ラバトにて締結8番目 9/21 モロッコ6名出発 派遣国8カ国となる 10/1 フィリピンに初めて駐在員派遣 10/19 佐藤首相フィリピンで隊員と懇談 11/1 就職あっせん室新設	3/23 フィリピン・マルコス大統領隊員を激励	8/8 東南アジア諸国連合(ASEAN) 設立
4 3 68	1/8 カンボディアから初の帰国隊員3名 3/ 協力隊事務局広尾に新庁舎完成移転 3/27 タンザニア会館で帰国報告会、協力隊隊歌「若い力の歌」発表会 3/30 ラオス隊員パテラオ(ラ)に進行され無事解放 4/27 琉球政府協力隊で隊員選考試験実施 6/4 協力隊記録映画「若い力」インド・アフリカ編 第6回日本映画産業コンクールで産業映画奨励賞受賞 6/5 協力隊ビル開局式 7/26 エルサルバドル協力隊派遣取極サンサルバドルにて締結9番目 8/9 調整員制度発足、フィリピンに初めて調整員出発 8/6 ラオス・バクタン国王隊員を激励 8/29 インドに初めて調整員派遣 9/12 エルサルバドル8名出発派遣国9カ国となる 9/12 佐藤首相映画「若い力」観賞 9/15 記録映画「若い力」全国監督直営館で封切り 10/12 メキシコ・オリンピック、エルサルバドル体育隊員5名視察 11/25 モロッコに初めて駐在員派遣		2/26 成田空港闘争始まる



4.4 69	1/17 「JOCV通信」創刊号発行 2/ パブプロジェクト準備発足 3/ 協力隊知名度調査。東京で知名度34% 4/25 皇太子・同妃同殿下隊員OB5名に御接見 4/26 日本青年海外協力隊OB日会設立総会開催される 5/8,9,44/1次隊第2次選考57名合格 6/26,7,2,4 皇太子・同妃同殿下OB隊員に御接見 7/11 「隊員の共済給付に関する基準」発足 9/11 ケニアに初めて駐在員派遣 10/30 シリア協力隊派遣取極ダマスカスにて締結10番目 12/3,4,6 44/3次隊第2次選考164名受験97名合格 12/9 インド マカラム14名出発	1/18 東大紛争安田講堂封鎖解除 3/ エルサルバドル隊員協力で体育教員養成学校開校 4/ 機関誌「若い力、若い力」発行 5/13 マレーシア・K・Lで暴動、非常事態令公布(〜70/2) 6/ ホンデュラス-エルサルバドル、サッカー戦争 8/19〜21 国立中央青年の家で初の「協力隊夏期講座」
4.5 70	1/9 シリア2名出発 派遣国10カ国となる 2/18 カンボディア隊員3名政変のため派遣中断 6/2 エルサルバドルに初めて調整員派遣 7/31 マレーシア隊員来日中のラマン首相を表敬 9/1 ネパール3名出発 派遣国12カ国となる 9/30 マレーシアで第1回アジア地区駐在員会議開催 10/15 「JOCVニュース」創刊号発行 11/6 ネパールに初めて調整員派遣 12/21 ウガンダ協力隊派遣取極エンテベにて締結13番目 12/25 「日本青年海外協力隊連絡諮問委員会」設置	6/ 真納隊員OB総理府青少年問題審議会委員に 6/23 日米安保条約自動延長 8/30 ライオンズ国際協会各国連絡所に図書100万冊寄贈 9/18 「文芸春秋」10月号「週刊文春」9/28号に事務局長抗議 11/25 隊員指導により「全シリア革道連盟」結成 11/25 三島由起夫刺殺事件
4.6 71	1/13 インド6名、ネパール2名印パ戦争のため約1カ月派遣遅延 3/28 インド・ライプルーに調整員派遣 4/22 池本博之隊員ラオスで死亡 6/4 第九回日本産業映画コンクールで協力隊記録映画「730日の青春」が文部大臣賞、他に教育映画コンクール金賞 7/2 マラウイ協力隊派遣取極ブラントニアにて締結14番目 7/26 マラウイに初めて調整員派遣 8/16 マラウイへ7名出発派遣国13カ国となる 8/26 ザンビアに初めて駐在員派遣 9/3 西サマ協協力隊派遣取極東京にて締結15番目 9/10 経済事務局長辞任 寺岡専務理事事務局長事務取扱いに 10/18 首野前次、渡辺陸軍隊員フィリピン・ルソン島沖で遭難した乗組員22人救助、船員組合から表彰状 11/9 エチオピア協力隊派遣取極アディスアベバにて締結16番目 12/25 協力隊ビル第2次増築工事完成	1/1 国連ボランティア(UNV)発足 3/26 バングラデシュ独立宣言 6/17 沖繩返還協定調印 7/1 マラウイ・バンド大統領終身大統領に 7/1 パプア・ニューギニア独立 8/28 円変動相場制移行 9/25 隊員108初のUNVとしてイエメンアラブに赴任 9/25 尾田福子OG著「愛しのタンザニア」出版 10/25 中国国連復帰 12/3 印パ全面戦争 16日停戦
4.7 72	1/21 77A 島で元日本兵横井庄一氏発見 3/16 伴正一事務局長就任 5/20 第3回OB日会総会真鍋浩会長就任 4/18 トンガ王国協力隊派遣取極フンドンにて締結17番目 4/28 奥田俊隆隊員タンザニアで病死 6/25 石井優隊員マラウイで交通事故死亡 8/14 エチオピア15名出発 派遣国14カ国となる 10/1 エチオピアに初めて駐在員派遣 11/13 西サマに初めて調整員派遣 12/11 西サマ1名出発 派遣国15カ国となる	1/10 8-ナクチャ- 1/ネパール・マレンドラ国王死去 2/3 第11回札幌冬季初音 2/16 渡間山荘事件 6/1 帰国隊員著「俺たちの異郷」出版 7/21 UNVリベリア派遣 8/25 UNVイラン派遣 9/22 フィリピン戒厳令発令(〜81/1/17) 10/10 宮本大運OB著「王都にかけた青春」出版 10/20 フィリピン国家警察軍の要請で川崎純男隊員元日本兵復参参加 12/ ホンデュラス・クーデター、ロサ 将軍
4.8 73	1/21〜24 初めての帰国隊員オリエンテーション 3/24 バングラデシュ協力隊派遣取極ダッカにて締結18番目 3/30 トンガ1名出発 派遣国16カ国となる 4/1 事務局機構改革、派遣課→地域課、第二訓練所・情報管理課新設、企画調整室・契約室廃止 4/9 新業務方式スタート 4/9 訓練方式(広尾・代々木訓練所、4月)スタート 4/7 「所属先補填に関する基準」設置「人件費補填」 6/26 コスタリカ協力隊派遣取極サンホセにて締結19番目 7/1,8,22 第1回シニア隊員資格試験 7/15 初の全国都道府県における第1次隊員選考試験実施 8/1 バングラデシュに初めて駐在員派遣 8/18 バングラデシュ3名出発 派遣国17カ国となる	1/27 ベトナム和平協定 2/15 3フィリピンOB日本政府小野田元少尉第三次捜索団員として参加 2/22 ラオス愛国戦線とプーマ政府ラオス停戦協定調印 4/17 鳥崎幸幸08著「ラッパ吹かされた花嫁」出版 4/22 沖津川島OB会発足 4/30 帰国隊員著「第二部俺たちの異郷」出版 5/19 大阪府OB会発足 6/3 静岡県OB会発足 7/ 徳木・宮城県で初めて隊員カウンターパートを研修員として受け入れ 10/1 UNVコートジボワール派遣 10/6第4次中東戦争(1973年)とイスラエル 10/ 第1次石油ショック 10/17イで10月学生革命 12/ トイレットペーパー騒動
4.9 74	1/1 「日本青年海外協力隊福根基金」スタート 4/ 国内ボランティア制度発足 7/22 テニジア協力隊派遣取極東京にて締結20番目 8/1 国際協力事業団設立、協力隊事業は同事業団法第21条第2号業務として明文化される 10/9 コスタリカ4名出発 派遣国18カ国となる 11/6 阿多給子隊員ネパールで病死 12/31 インド・ニューデリー協力隊産婦人科閉鎖	1/1 東大紛争安田講堂封鎖解除 4/1 東京OB会発足 5/25 宇野みどり06著「マホアのまたち」出版 5/13 マレーシア・K・Lで暴動、非常事態令公布(〜70/2) 6/ ホンデュラス-エルサルバドル、サッカー戦争 8/19〜21 国立中央青年の家で初の「協力隊夏期講座」 9/25 隊員108初のUNVとしてイエメンアラブに赴任 9/25 尾田福子OG著「愛しのタンザニア」出版 10/25 中国国連復帰 12/3 印パ全面戦争 16日停戦

5 0  
75

1/ 隊員の海外手当電報送金になる 1/18 群馬県OB会発足 2/ネパール・ビレンドラ国王戴冠式  
 2/ 皇太子、同妃両殿下ネパール、バングラデシュで隊員にご接見 2/ ベルー・リマ暴動発生、非常事態宣言  
 3/22 大沢孝夫隊員ケニアで交通事故死  
 3/31 エルサルバドル政府協力隊員の活動を高く評価し協力隊事務局長に社・サテライト 駐在員と  
 4/1 テュニジアに初めて調整員派遣 4/22 ホンデュラス・クーデター、MGR大統領  
 4/23 テュニジア2名出発 派遣国19カ国となる 4/30 南バハ解放戦力軍司令官入獄  
 4/ 「間接経費精算」制度スタート 4/ 原義治OB福岡県恩賀町可議、津留今朝夫OB熊本県高森町可議に  
 7/3 「隊員支援経費」制度スタート  
 7/7 50/1次隊丹沢山登山中食中毒 7/13富山県OB会発足  
 7/23 明治神宮会館で映画「アサンテ・サーナ」特別試写会、皇太子、同妃両殿下、宮内省御臨席  
 7/15 UNV PNO派遣 7/17国際ロータリー、MGR隊員支援として300万円  
 8/ ラオス・ATVクラブ 隊員サマソフに引き揚げ 8/23 ヴェトナム解放、全土、全機関人民革命委員会下に  
 8/27・28 初の全国都道府県国際協力事業基団関係主管課長会議が外務省で開催される  
 8/27・28 全国高等学校海外教育研究協議会初めに協力隊事務局で開催  
 9/ 函書登録制度を廃止し51年秋募集より毎回願書提出制度に 9/16 パプア・ニューギニア独立  
 9/18 「アサンテ・サーナ」上映中央推進委員会発足、茅誠司委員長 9/20 福島県OB会発足  
 9/25 待機中のラオス・50/1次隊のスタッフ 赴任  
 9/26 第1回協力隊運営委員会開催 10/28-29大尾湖緑道青森で農村支援実習 10/19 愛知県OB会発足  
 11/12 ホンデュラス協力隊派遣取扱テダングルパにて締結21番目 12/2 ラオス人民民主共和国樹立

5 1  
76

2/20 ホンデュラス2名出発 派遣国20カ国となる 2/11 石川県OB会発足 1/ ザンビア非常事態宣言  
 3/30 51/2次隊 福田総理の激励を受ける 3/13 埼玉県OB会発足 1/8 周恩来中国首相死去  
 4/1 ガーナに初めて駐在員派遣 4/ 「協力隊職種分類表」使用開始 3/ 土ウ、タウ、07と断交  
 5/6 「隊員の特別一時帰国制度」決定 4/15 「協力隊を育てる会」発足、茅誠司会長 7/1 ベルー騒乱発生、非常事態宣言  
 7/11 藤田すなえ隊員マラウイで交通事故死 10/6 タイ・クーデター、ターニン内閣誕生  
 10/1 コスタリカに初めて調整員派遣  
 10/13 東條正義隊員モロッコで病死 10/16 UNV北イエメン派遣  
 11/ トンガヘマゴ漁業訓練船寄贈 11/15 山形県OB会発足 11/ エチオピア人民革命党弾圧、50人処刑数千人逮捕  
 12/ アサンテ・サーナ上映推進キャンペーン終了、24万人観賞 12/11 UNVレント派遣 12/13 宮城県OB会発足

5 2  
77

1/24 伴事務局長辞任 1/25 黒河内康事務局長就任  
 2/17 ガーナ協力隊派遣取扱アクラにて締結2番目 3/5 保阪努OB会長就任  
 4/ 事務局編「新たな1 開発教育」をめざして」出版 5/25 久保田初江OG著「遠くなるラオス」出版  
 6/18 中島百合子ネパール隊員病死  
 7/28 52/1次隊 福田総理の激励を受ける  
 8/1 シリアに初めて調整員派遣  
 8/17 ガーナ9名出発 派遣国21カ国となる 10/20 タイ・クーデター・クリアンサクク国軍最高司令官  
 9/11 エチオピア隊員引き揚げ 11/5 「愛知県協力隊を育てる会」発足 10/2 日本赤軍日航機ハイジャック、ルガナチカで身代金受取る  
 12/29 ボリヴィア協力隊派遣取扱ラパスにて締結23番目 12/25 ラオス代理大使夫婦惨殺

5 3  
78

2/24 パラグアイ協力隊派遣取扱アスンシオンにて締結24番目 1/26 テュニスで暴動 2/25まで緊急事態宣言  
 2/24 パラグアイ3名出発 派遣国22カ国となる  
 3/25 ラオス最後の隊員任期満了以降派遣中止 3/30 「協力隊シリーズ」出版  
 4/1 パラグアイに初めて調整員派遣 4/ネパール鉄線キャンペーンスタート、以降3年間でシーソー、フランス等58設置  
 4/7 ボリヴィア3名出発 派遣国23カ国となる  
 4/17 徳田乃子(アキカワ) 隊員シリアで交通事故死 4/22 「福岡県協力隊を育てる会」発足 5/20 成田空港閉港  
 6/1 ホンデュラスに初めて調整員派遣  
 6/5 松田秀一隊員ザンビアで交通事故死 7/1 ソロモン諸島独立  
 7/7 ソロモン諸島協力隊派遣取扱東京・ホニアラにて締結25番目 7/21 ボリヴィア軍事クーデター、ベレダ空軍大将大統領就任  
 7/17 機関誌「若い力」改題し「クロス・ロード」に 8/7 ホンデュラス無血クーデター成功、軍事評議会実権掌握  
 8/21 リベリア協力隊派遣取扱モンロビアにて締結26番目 8/12日中平和友好条約調印 8/21 ベルー非常事態宣言  
 9/26~10/3 初の全国派遣駐在員会議 8/22 ケニア・ケニヤッタ大統領病死  
 10/11 平田勝隊員ネパールで病死 8/30 吉岡逸夫OB著「わがエチオピア人」(写真集) 出版 9/14 ケニア・モイ大統領就任式  
 12/31 インドでの隊員協力活動終了 11/25 山口県協力隊を育てる会」発足 第2次石油ショック

5 4  
79

1/7 カンボディア人民共和國誕生 1/16 エルサルバドル左翼ゲリラ首都占拠  
 4/1 リベリアに初めて調整員派遣 4/1 国内Vを改め国内協力員制度新設 4/ 英文クイック辞典 4/16~22 セネガル・サンゴール大統領訪日  
 4/10 エルサルバドル派遣中の隊員3名政府不安のため引揚げ 4/12 リベリア、ドニ曹長クーデター  
 4/10 協力隊向け根拠訓練所、長野県駒ヶ根市に落成  
 4/18 セネガル協力隊派遣取扱東京にて締結27番目  
 4/23 リベリア3名出発 派遣国24カ国となる  
 5/24 駒ヶ根訓練所開所式  
 6/17 ソロモン諸島2名出発 派遣国25カ国となる 6/4 ガーナ・ロツツカ空軍大尉因クーデター軍政革命評議会設立  
 6/22 土屋茂隊員タンザニアで病死 3/6 ボリヴィア、ワタナベ・ヤク臨時大統領就任  
 7/1 伊沢秀幸隊員マラウイで病死  
 8/20 ベルー協力隊派遣取扱リマにて締結28番目 9/24 ガーナ・7年8ヵ月振戻り2ヵ月 政治復活第3共和国  
 8/24 パプア・ニューギニア協力隊派遣取扱ポートモレスビーにて締結29番目

10/18 エチオピア協力活動再開  
 12/11 「バングラデシュの大地に」隊員紹介映画芸術祭大賞受賞、他に日本産業映画賞、教育映画優秀作品賞等

5 6 80	1/7	法限総裁辞任 1/8 石田圭輔国際協力事業団総裁就任	1/1	セネガル・ジウフ首相就任	
	2/8	ペルー1名出発 派遣国2 6カ国となる	2/28	インドシナ難民調査団にOB 5人参加	
	4/1	労働者災害補償保険「海外派遣者特別加入制度」に加入	4/12	リベリア・クーデター・IMAT 大統領殺害「新政権樹立	
	5/7	「事故死ゼロの7.30日」キャンペーンスタート			
	5/15	スリランカ協力隊派遣取扱コロナ禍にて締結3 0番目		5/18 ペルー、大統領選でアストファ・バウチアノ当選	
	5/16	マレーシアOBマレー人スタッフを日本へ招待		5/18 ペルー、大統領選でアストファ・バウチアノ当選	
	6/7	UNV・インドネシア派遣	7/18	ボリヴィア、クーデター、AIM・BKA陸軍司令官大統領に就任	
	7/31	パプア・ニューギニア3名出発 派遣国2 7カ国となる		7/28 ペルー、民政移管ペラウンデ政権発足	
	8/18	黒河内事務局長辞任 8/19 野村忠策事務局長就任			
	8/28	井戸一哉隊員が車で交通事故			
	9/29	セネガルに初めて調整員派遣	9/4	ボリヴィア、セクトリウ・ベラッセル陸軍司令官が新大統領に	
	10/15	セネガル3名出発 派遣国2 8カ国となる	10/10	協力隊の歴史を語りつづめる著「翔べ、途上国に」出版	
	12/3	パプア・ニューギニアに初めて調整員派遣	10/17	ザンビア・クーデター未遂事件40人以上逮捕	
		12/10	ホンデュラスとエルサルバドル11年振り国交回復		
5 6 81	1/19	タイ協力隊派遣取扱締結ベトナムにて締結3 1番目	1/1	日本青年会議所(JC)協力隊積極支援を提言	
	3/17	ニコレ・タンザニア大統領官中晩さん会で協力隊を高く評価	2/	本田敬OB著「文明の十字路口から」出版	
	3/30	スリランカに初めて調整員派遣	4/7	フィリピン憲法改正国民投票	
	4/3	スリランカ3名出発 派遣国2 9カ国となる	4/15	「タロスロード」誌有料販売開始	
	4/9	ペルーに初めて調整員派遣	5/30	パングラ・ジヤウル・ラーマン大統領暗殺 6/16 フィリピン大統領選挙	
	7/26	高見順一隊員が車で交通事故死 7/ 岡田美智子OG著「編物」がNHKの教科書に	6/30	フィリピン・マコス大統領就任宣誓式	
	7/28	タイへ1名出発 派遣国3 0カ国となる	8/29	「高知県協力隊を育てる会」発足	
	8/7	「タロスロード」誌第3種郵便物認可	10/25	山岡和一OB初めてのUNICEF専門家に	
	8/17	「秋田県国際交流ボランティア協会」(秋田県協力隊を育てる会)発足			
	8/5	リベリア57年1月まで隊員ゼロ	11/31	渡部和夫OB著「THAI PUSANI」(写真集)出版	
	12/6	モルデイツ協力隊派遣取扱締結マレーにて締結3 2番目	12/31	ガーナ・ロラフ空軍大尉クーデター	
	5 7 82	2/28	モルデイツ4名出発 派遣国3 1カ国となる	1/27	ホンデュラス、ロバト・ガブリエル大統領就任
		3/13	初の全国婦人隊員報告会日経ホールで開催	3/24	パングラ・マコシ陸軍参謀長無血クーデター
4/6		モルデイツ大統領官中晩さん会で協力隊を高く評価	4/7	モイ大統領の総理官邸での午餐会に婦人隊員参列	
4/10		黒田誠隊員が車で死亡	5/8	コスタリカ、AIM・MAM・モヘ 大統領就任	
7/24		主要マスコ関係者約4根訓練所視察	7/17	隊員泉田英隆著「ココナ」(建築製図) NHK 教科書に	
7/20		ガーナ隊員臨時国家安全委員会議長と会見	7/20	中島直樹著「電子機器とラジオ、TV 問題集」	
8/5		フィジー協力隊派遣取扱スバにて締結3 3番目	8/14	国際ボランティアOB会議(EVI)に協力隊OB初めて出席	
10/4		ボリヴィア隊員派遣中断	10/10	ボリヴィア、エマン・シレス・アソフ 大統領就任	
11/27		OB会による事故隊員の慰霊碑建立除幕式	11/30	高橋章OB著「ネパールの青い空の下で」(自費出版)	
12/13		皇太子・同妃両殿下事務所ご視察			
5 8 83		2/	皇太子・同妃両殿下ケニア・タンザニア・ザンビアで隊員にご接見		
		3/23	有田総裁協力隊員3年倍増計画記者会見で説明	4/15	「長崎県が青年海外協力隊派遣の要綱」はじめて制定
		5/17	ニジェール協力隊派遣取扱ニアミにて締結3 4番目	5/19	橋本蔵OB文芸春秋漫画賞受賞
	7/7	欠野裕隊員タンザニアで交通事故死	6/19	一盛和世OG著「6色クレヨンのはじめ」出版 6/6 中谷政義OB「北の川を名譽市民に	
	7/8	58/1次隊中曾根総理表敬		ザンビア農業隊員「ザンビア農業事情」編纂	
	7/25	フィジー2名出発 派遣国3 2カ国となる	8/1	派遣中の隊員数1, 0 0 0名突破	
	8/29	ニジェール1名出発 派遣国3 3カ国となる	8/21	フィリピンでアキノ暗殺	
	10/15	総裁・婦人隊員を囲んでの初の記者懇談会	10/15	募集用映画「協力のなかの青春」完成	
	11/30	外務省事務次官岡原知事宛「地方公務員が青年海外協力隊に参加する際の休暇条例等の整備について」送付			
	12/28	社団法人「青年海外協力協会」外務省認可を受ける	11/20	米田公生OB著「サモア語辞書」「西サモアの生活ガイド」(自費出版)	
	5 9 84	1/20	ボリヴィア1年3カ月振り派遣再開	1/5	折井浩OB著「アクア・バ！」出版
		2/	皇太子・同妃両殿下セネガルで隊員活動ご視察	1/19	社団法人「青年海外協力協会」発足
		3/	協力隊紹介映画海外広報用英語版「THE JOY」完成	2/	東京都3小中学校で協力隊を題材とした研究授業
4/10		「西訓練所とも自己完結・同時訓練」方式となる	3/10	「大分県協力隊を育てる会」発足	
7/30		隊員の国内償立金二本立てに	7/1	「協力隊を育てる会」創刊	
8/26		自治省、都道府県宛「休暇条例等関連条例の規定整備について」送付	8/16	北海道「国際協力事業団青年海外協力隊への職員参加に関する要綱」制定	
9/13		協力隊事務局表参道に仮移転			
9/20		2 0周年記念シンポジウム決定	10/19	電報東京「青年海外協力隊友の会」発足	
11/16		佐久間啓二パングラデンシュ隊員病死	11/11	「熊本県協力隊を育てる会」発足	
			11/13	電報東海「海外交友会」発足	
			12/1	パラダイイ隊員企画「日本祭」好評	
6 0 85		1/1	正月企画約5 0紙で協力隊掲載		
		1/4	コロンビア協力隊派遣取扱ボゴタにて締結3 5番目	1/19	「岩手県青年海外協力隊を育てる会」発足
	1/24	ジョルダン協力隊派遣取扱アマンにて締結3 6番目			
	1/31	野村事務局長辞任 2/1 敦原孝憲事務局長就任			
	3/12	ドミニカ協力隊派遣取扱サント・ドミンゴにて締結3 7番目			
	3/18	協力隊バス施設の改築工事起工式			



皇太子、同妃両殿下帰国隊員へ接見

# 業団設立10周年記念レセ

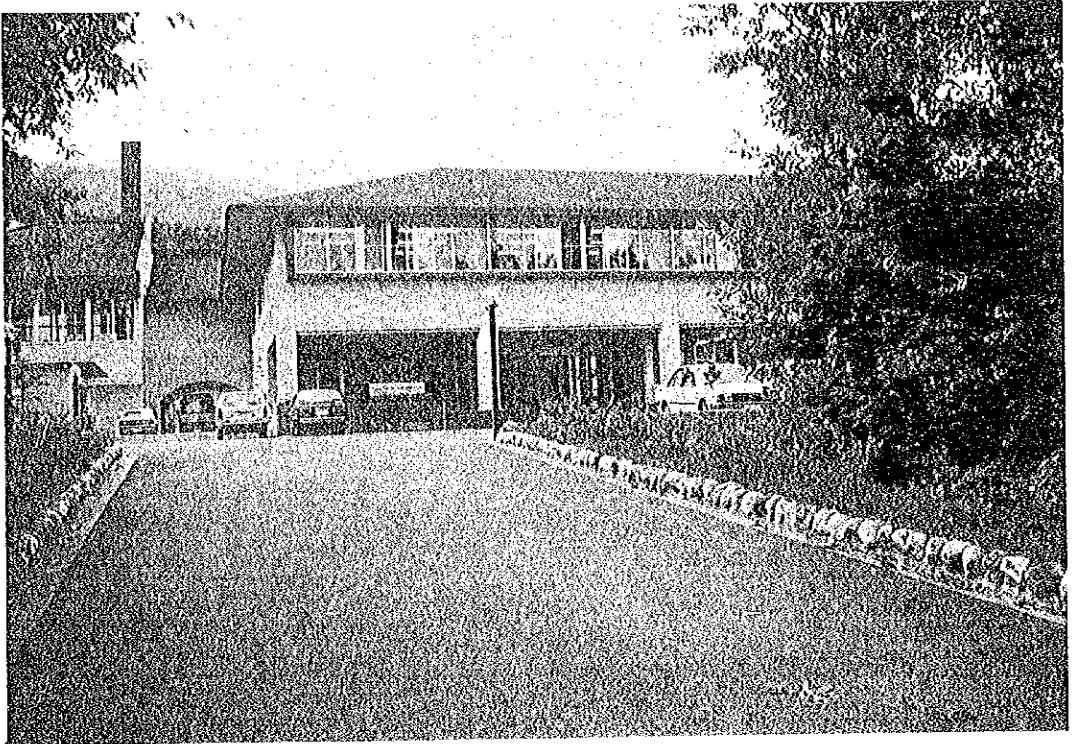


安倍外務大臣

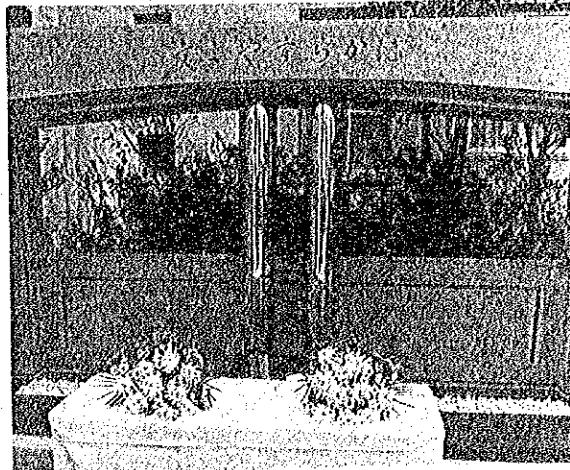
# 立10周年記念



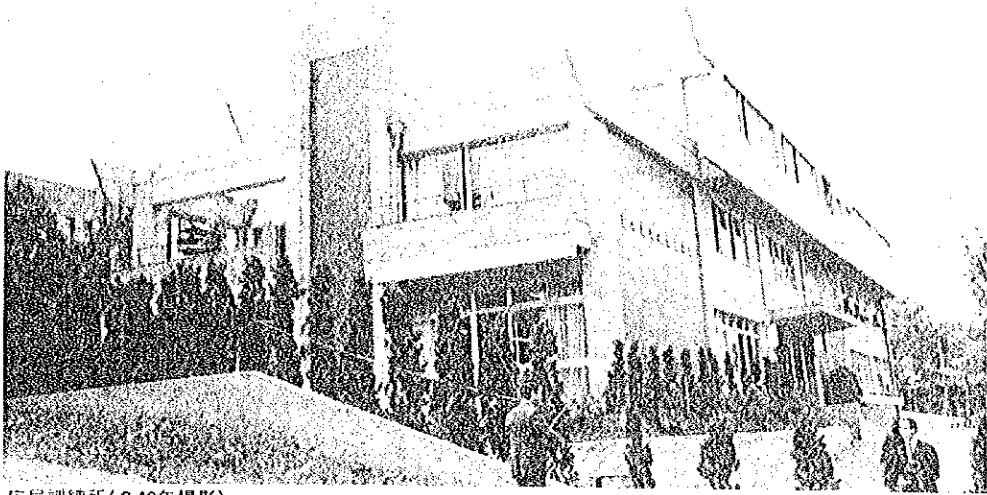
有田総裁



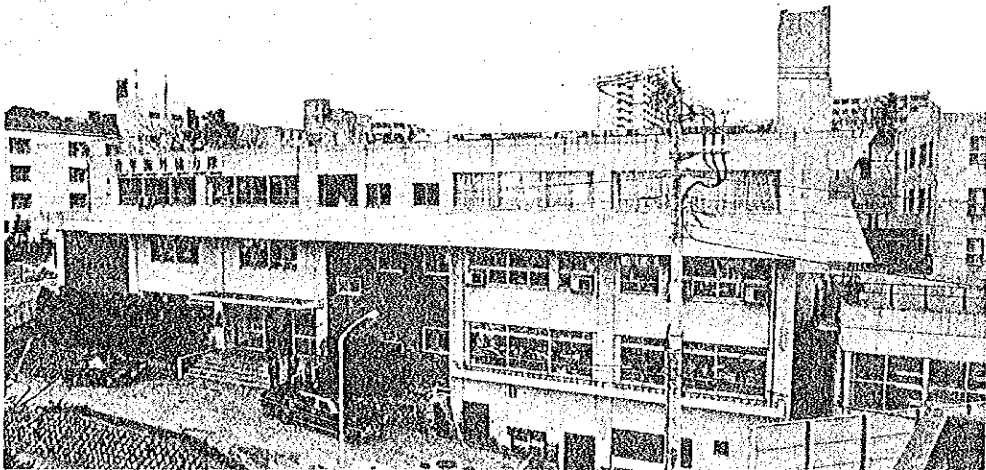
駒ヶ根訓練所



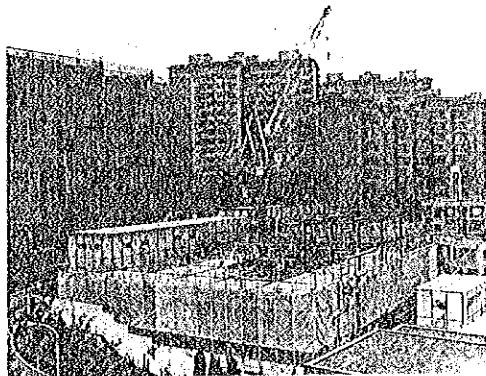
物故隊員慰靈碑



広尾訓練所 (S 42年撮影)



広尾訓練所 (S 59年撮影)



広尾訓練所改築中 (S 60年撮影)

## あ と が き

\* 「青年海外協力隊の歩みと現状」は、20周年を契機に協力隊事業を振り返り、協力隊事業の業務実績を理解してもらうため、また、過去の資料を整理し、今後の業務の参考資料とすることを目的として刊行しました。

\* 序章では、草創期に携わった方々、及び歴代事務局長のご寄稿をいただきました。用務ご繁忙に拘わらず誠に貴重な史実やご助言を披瀝していただきました。今後の業務をすすめる上で貴重な示唆となると信じ深く感謝申し上げます。

\* 本誌は、第一章で事業全体の流れを概観し、第二章で国別の隊員の活動を記録し、第三章で業務毎の20年を眺めました。

\* 本誌編纂にあたりましては、各方面からの貴重な証言もいただきましたし、叱責、助言もいただきました。特に第二章の国別編は50余人の方々にご執筆いただいています。改めて、感謝申し上げます。

\* 二章では場面場面で隊員の人たちの顔が浮かびます。名前が入っていたほうが理解しやすいかと思いましたが、たまたま活躍の場面に会った隊員、黙々と頑張ったけれど結果として何も残せなかった隊員、その差があってはならないと思い、隊員名は省略しました。

\* なお限られた時間内ということもあり、記述のいたらない点、記録の不備な点等があるかと思いますが、将来25周年あるいは30周年の機会に訂正してもらうことで容赦いただきたいと思ひます。

青年海外協力隊20周年記念誌編集事務局

表伸一郎／小野正美／小宮英夫／神谷弘司／茅根史男

### 青年海外協力隊の歩みと現状

—その20年—

昭和60年10月9日発行

編集・発行 国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

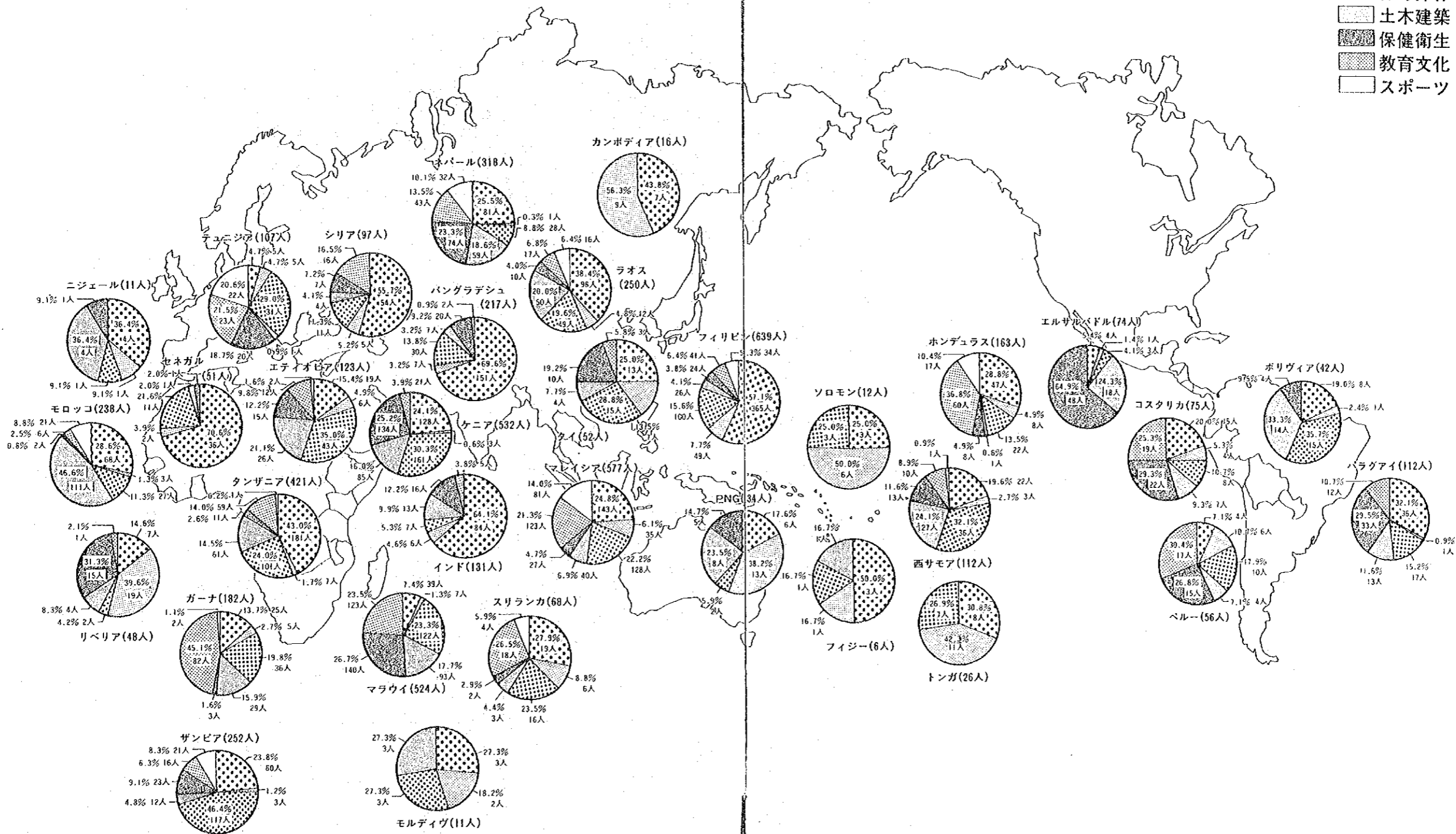
〒150 東京都渋谷区神宮前4-11-7 電話 03(400)7261(代表)





協力隊員部門別国別派遣実績

- 農林水産
- 加工
- 保守操作
- 土木建築
- 保健衛生
- 教育文化
- スポーツ





Japan Overseas Cooperation Volunteers